

基礎分野

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	物理学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

医療の現場では物理学の理論を基礎として治療や看護が行われていることが多い。

看護を学ぶ学生が物理学の重要性を認識し、看護技術や医療機器を理論的に考え実践できる能力を身につける。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 物理学的理論・現象・法則がわかり看護実践に活用できる	30	1 物理的諸現象について 2 生活の中の物理学 3 看護の中の物理学 4 医療機器と物理的原理 5 人間工学	講 義	試 験

テキスト 新体系 看護学全書 基礎科目 物理学 メヂカルフレンド社

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	生物学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

生物体としての人間を理解するため、生態系を支配する法則や生命の維持・増進など生物学の基礎を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 生物の基礎がわかる	26	1 生命とは 2 細胞 - 生命の基本単位 3 生体を構成している物質 4 代謝の仕組みⅠ - 異化 5 代謝の仕組みⅡ - 同化 6 生殖 7 発生のしくみ 8 遺伝の法則 9 たんぱく質の基本的性質 10 遺伝子発現とタンパク質合成 11 ヒトの脳と神経系 12 恒常性Ⅰ 13 恒常性Ⅱ	講 義	試 験
	4	14 生物学実習		

テキスト

基礎教養シリーズ まるわかり！基礎生物 南山堂

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	社会学
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

社会現象やその背景にあるものの考え方を学び、個人と社会、家族と社会、集団・組織と社会、地域と社会を知ることによって社会の中の自己を考える。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 社会の成り立ちが分かり、自己および他者の理解に活用できる	15	1 社会学の意義 2 ジェンダーの社会学 3 近代社会・家族 4 労働の意義 5 戦前戦後の社会の変動 6 格差社会の出現と問題 7 高齢者福祉の現状と問題 8 医療と社会学	講 義	試 験

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	国語表現法
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

論理的思考・表現方法を学び、対人関係における円滑なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を高める。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 コミュニケーション技術・プレゼンテーションの技術を習得する	2	1 論理的思考	講 義	試 験
	8	2 ディベート		
	8	3 プレゼンテーション		
	12	4 論文 5 小論文		

テキスト 看護の力 岩波新書

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	英語
単位・時間	2単位 45時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

国際化社会に適応できる語学力の基礎を身につけてほしい。さらに、医学や看護に関する英語表現を学び、看護実践や生涯学習につなげる。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 基礎的な語学力を身につけ看護に関する文献の通読に役立つ	20	1 英文法	講 義	試 験
	15	2 英会話		
	10	3 文献通読		

テキスト Quick - Step English 1「クイックステップ イングリッシュ 1」南雲堂

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	体育
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	実習		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

身体活動を通していきいきとした心身を育成し、健康の保持増進をする。また、集団で活動することで協調性・自主性を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 心身のバランスを保ち協調性・自主性のある行動がとれる	30	1 ソフトバレーボール（第1～6回）	実 習	実技試験 レポート
		2 バドミントン（第7回～12回）		
		3 卓球（第13回～15回）		
		4 「スポーツ科学」、および「健康と運動」に関する基礎知識		

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	コミュニケーション論
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

コミュニケーションが人間関係にもたらす意義や影響を理解する。

また、自らコミュニケーション能力を高めていく意識と姿勢を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 コミュニケーションの意義と構成要素を理解する	30	1 対人関係コミュニケーションの意義	講 義	試 験
2 よりよい人間関係を築くための理論や方法がわかる		2 表情コミュニケーション		
		3 視線コミュニケーション		
		4 身振り・姿勢・周辺言語コミュニケーション		
		5 空間的行動コミュニケーション		
		6 社会的知覚コミュニケーション		
		7 印象形成コミュニケーション		
		8 対人認知コミュニケーションを歪める要因		
		9 対人魅力コミュニケーション		

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	心理学
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

人間の心理と行動について学び、自己と他者を理解する動機づけとする。さらに、人間の成長発達に伴う特徴と変化を知り、その個別性を理解する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 人間の心理や行動の基礎を理解できる	30	1 心を科学する方法：心理学の基本的な考え方について 2 学習：単純な学習 古典的条件付けとオペラント条件づけ 3 性格：性格の理論と測定 力動論 4 カウンセリング 1) 看護や日常生活に活かす技法の基礎 2) 相談のための技法 5 患者の心理の理解 6 社会心理学	講 義	試 験

テキスト 実験心理学 心理学の基礎知識 八千代出版

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	情報科学
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

情報科学の初歩的理論を学ぶ。また、コンピューターの機構特性を理解し、基本的な操作能力を習得する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 コンピューターの特徴を理解し基礎的な操作能力を習得する	15	1 ワードを用いた文書作成 2 ワードを用い、図・表を含む文書作成 3 エクセルの基礎 4 エクセルの関数の利用 5 エクセルを用いているいろいろなグラフを作る	講 義	試 験

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	統計学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

情報、特に数値で表された情報を整理・標準化し、統計処理して科学的に理解、評価する理論と技術を学ぶ。そして看護の分野で用いられる種々の統計の基礎とする。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 基本的な統計データの整理の仕方・統計処理の基本技術を習得する	30	1 統計学概論 2 母集団と標本 3 基礎統計（統計量） 4 度数分布表 ヒストグラム 5 母集団分布（正規分布1） 6 エクセルを用いた統計（統計量、グラフ） 7 母集団分布（正規分布と2項分布） 8 仮説検定の基本的な考え方 9 2項母集団における母比率の検定 10 2群間のちがい（F-検定・t-検定） 11 区間推定 12 エクセルを用いた統計2（分析ツールの利用）	講 義	試 験

テキスト ナースのための統計学 医学書院

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	教育学
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

教育は人間の持つ力を引き出しより望ましい姿に変化させる。看護も対象がより望ましい状態になるよう働きかける。そのための教育方法を身につける。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 学習の意味や意義を理解し、教育方法を習得する	15	1 教育の原理 2 教育の機能 3 教える側、学ぶ側の心理 4 教育技法 5 教育評価 6 生涯教育	講 義	試 験

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	哲学
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

人間の存在、生と死、生命倫理について学ぶことにより人間について理解する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 哲学的・倫理的な思索態度を身につける	4	1 哲学的な倫理学とは何か ・日常道徳と論理学、人生論と倫理学はどこが違うのか ・嘘をつくこととその結果 ・義務論と帰結主義	講 義	試 験
	6	2 義務論の倫理学 ・幸福は道徳の原理になるか ・普遍化可能な格率にもとづいた行為 ・道徳法則と自由 ・最高善と正義の実現		
	10	3 帰結主義の倫理学 ・功利主義と利己主義 ・功利主義と規則 ・功利主義の正当化 ・功利主義の問題点		
	10	4 「人格」と生命 ・SOLとQOL、ケアとキュア ・「生命の質」と「人格」理論 ・「人格」理論の問題点		

テキスト 生命倫理学入門 産業図書

專門基礎分野

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	解剖学
単位・時間	2単位 60時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

解剖学は疾患や看護を学ぶ基礎である。医療が高度化する現在、正確な知識に基づくアセスメントが重要になる。人体を構成している骨や筋、臓器などの名称、位置、つくりを学び、看護の対象であるヒトの体を理解し、看護に活かす能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 身体の構造を理解する。	25	1 生命・遺伝子・細胞 2 人体の外観 3 人体発生学総論 4 総皮（外皮） 5 骨格系 6 筋系 7 循環器系 8 消化器系	講 義	試 験
	31	9 呼吸器系 10 泌尿器系 11 男性生殖器 12 女性生殖器 13 内分泌器官 14 中枢神経系 15 末梢神経系 16 視覚器 17 聴覚器	講 義	試 験
	4	18 解剖実習	講 義	

テキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院
入門人体解剖学 南江堂

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	生理学
単位・時間	2 単位 60 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

生理学は疾患や看護を学ぶ基礎となる。医療が高度化する現在、正確な知識に基づくアセスメントが重要になる。人体を構成する様々な臓器・器官の働きと各器官の連動を理解し、看護の対象であるヒトの体を理解し、看護に活かす能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
人体各部の機能について理解する。	18	1 生理学総論 1) 生理学の概要 2) 細胞、組織、器官の構成 2 体液、血液の概要 1) 細胞膜の透過性と能動輸送、興奮 2) 体液の概念（細胞内外の環境、体液量、組成および移動） 3 血液 1) 赤血球、白血球、血小板、血漿のはたらき 2) 止血と血液凝固 3) 血液型 4 神経系・一般生理及び概論 1) 興奮性細胞（神経、筋、受容細胞） 2) 刺激と反応 3) 骨格筋の収縮機序 4) シナプス伝達、終板電位 5) 神経系の概要（脊髄と脳） 5 呼 吸 1) 呼吸の概念 2) 呼吸器の構造と機能 3) 呼吸運動、換気力学、肺気量分画 4) ガス交換とガスの運搬 5) 呼吸の調整機構 6) 異常呼吸	講 義	

	18	6 循環 1) 循環の概念 2) 心臓の構造と機能 3) 心電図 4) 血管の構造と機能 5) 循環力学 6) 醜態力学、血圧、血流量、血流抵抗、微小循環、局所循環 7) リンパの機能 8) 心臓・血管系の調節機構	講 義	試 験
		7 細胞膜の物質移動 1) 細胞膜の透過性と興奮、能動輸送 2) 人の構造と機能 3) 濾過と再吸収機能 8 排泄 1) 排泄機構 9 体液調節 1) 尿の性状 2) 体液量と酸塩基平衡の調節 10 消化・吸収 1) 消化器系の構造と機能の概説 2) 消化液とその分泌 3) 消化管における消化・吸収 4) 消化管の運動 5) 排便 11 栄養・代謝 1) 肝の機能、代謝の概念 2) 栄養素とエネルギー代謝 12 体温調整 1) 産熱と放熱節 2) 体温調節		

	18	<p>13 内分泌</p> <p>1) 体液性調節の概念</p> <p>2) 内分泌腺とホルモンの種類</p> <p>3) ホルモンによる生体調節</p> <p>4) 性の決定と生殖の機序</p> <p>14 生殖</p> <p>1) 性ホルモン 2) 生殖生理</p> <p>3) 受精と妊娠、分娩</p> <p>15 神経系</p> <p>1) 神経系の分類 2) 中枢神経系</p> <p>3) 末梢神経系 4) 自律神経系</p> <p>5) 脳波と睡眠、意識</p> <p>6) 本能と情動行動 7) 学習と記憶</p> <p>8) 運動機能と伝導路</p> <p>16 感覚</p> <p>1) 感覚の概念 2) 受容細胞と受容器</p> <p>3) 体性感覚、内臓感覚、特殊感覚 4) 痛覚</p> <p>5) 各種感覚の伝導路</p>	講 義	試 験
	6	17 生理学実習	講 義	レポート

テキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	生化学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

生化学は疾患や看護を学ぶ基礎である。生体がどのような化合物で成り立っていて、それらの化合物がどのように作られ、壊されて恒常性が保たれているか学ぶ。そして看護の対象であるヒトの体を理解し看護に活かす能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 生体内での物質代謝について学ぶ。	9	1 生化学を学ぶための基礎知識 1) 生化学を学ぶにあたって 2) 科学の基礎知識 3) 細胞の構造と機能 2 糖 質 1) 糖質とは 2) 糖質の種類 3) 単糖の構造と性質 4) 二糖の構造と性質 5) 多糖の構造と性質 3 脂 質 1) 脂質とは 2) 脂質の種類 3) 脂質の役割 4) 脂質各論 (1) 脂肪酸 (2) 中性脂肪 (3) リン脂質 (4) 糖脂質 (5) コレステロール 5) リポタンパク質 4 タンパク質 1) タンパク質とは 2) アミノ酸 3) タンパク質の構造 4) タンパク質の分類 5 核 酸 1) 核酸とは 2) 塩基 3) ヌクレオシドとヌクレオチド 4) DNAとRNAの構造 6 水と無機質 1) 水とは 2) 水の出入り 3) 無機質とは	講 義	試 験
	9	7 ホルモン 1) ホルモンとは 2) ホルモンの種類と作用機序 3) ホルモン各論 4) サイトカイン 8 代謝のあらまし		

		<p>1) 代謝とは 2) 消化・吸収された栄養素の体内での代謝</p> <p>9 酵 素</p> <p>1) 酵素に関する基礎知識 2) 酵素反応 3) 酵素反応の阻害 4) 酵素の分類 5) 酵素の応用</p> <p>10 ビタミンと補酵素</p> <p>1) ビタミンとは 2) ビタミンの種類と生理作用</p> <p>11 糖質代謝</p> <p>1) 糖質代謝のあらまし 2) グルコースの分類 3) 糖新生 4) ペントースリン酸回路 5) グリコーゲンの代謝 6) ガラクトース、フルクトース、マンノースの代謝</p> <p>12 脂質代謝</p> <p>1) 脂質の消化と吸収 2) 脂肪酸の分解 3) ケトン体の生成と利用 4) 脂肪酸の生合成 5) コレステロールの生合成と利用 6) エイコサノイドの生合成</p>		
--	--	--	--	--

	8	<p>13 タンパク質代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) タンパク質代謝のあらまし 2) タンパク質の消化と吸収 3) α-ケト酸を經由するアミノ酸の利用 4) アミノ酸からの各種含窒素化合物の合成 5) アミノ酸からの他のアミノ酸の合成 <p>14 核酸代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 核酸の合成と分解 2) ヌクレオチドの合成 3) ヌクレオチドの分解 <p>15 ポルフィリン代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ポルフィリンとは 2) ヘムの生合成 3) ヘムの分解 4) ビリルビンの代謝 <p>16 遺伝情報</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 遺伝情報とは 2) 複製 3) 転写 4) 翻訳 (タンパク質の合成) 5) 翻訳語のプロセッシングと細胞内移行 6) DNAの尊重と修復 	講 義	
	4	17 生化学実習	講 義	

テキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕生化学 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	臨床栄養学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) ー 2) ー		

設定理由

栄養ケアにおいては患者のすべてをアセスメント、支援していかなければならない。そのためには医療チーム全体で係わる必要がある。その中の看護の役割を理解する。自分自身の食生活を見直すことで人間にとっての「食べる」ことの意味を考える。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 人間にとっての栄養の意義と栄養マネジメントが理解できる。	20	1 人間栄養学と看護 1) 栄養と栄養素 2) 栄養学の歴史 3) 食物栄養学から人間栄養学へ 4) 保健と栄養 5) 医療と栄養学 6) 食事療法の進歩と医療制度 7) 看護と栄養 2 栄養状態の評価・判定 1) 栄養状態の評価・判定の定義と目的 (1) 栄養状態の移行過程の評価・判定 (2) 適正な栄養ケア計画作成のための情報提供 (3) 再アセスメントによる効果の評価 (4) 成果（アウトカム）の予測 (5) 食品の栄養の質の評価 2) 栄養状態の評価・判定法 (1) 臨床診査 (2) 身体計測 (3) 臨床検査 (4) 食事調査 3 栄養素の種類とはたらき 1) 炭水化物 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン 5) ミネラル 4 エネルギー代謝 1) 食品のエネルギー (1) 三大栄養素のエネルギー (2) エネルギーの換算係数 2) 体内のエネルギー (1) エネルギーの出納 (2) エネルギー代謝	講 義	試 験

		<ul style="list-style-type: none"> (3) 呼吸比 (R Q) 3) エネルギー代謝の測定 <ul style="list-style-type: none"> (1) 直接的測定法 (2) 間接的測定方法 (3) 二重標識水法 (D L W) (4) 時間調査法 (5) 加速度計法 (6) 歩行記録法 4) エネルギー消費 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎代謝量 (BMR) (2) 安静時代謝量 (RMR) (3) 睡眠時代謝量 (4) 特異動的作用 (S D A) (5) 活動代謝量 (6) 生活活動強度 5 栄養ケア・マネジメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 栄養ケア・マネジメントとは 2) 栄養スクリーニング 3) 栄養アセスメント 4) 栄養ケア計画 5) 栄養ケア計画の実施とチェック 6) モニタリング 7) 評価 6 健康づくりと食品・食事・食生活 <ul style="list-style-type: none"> 1) 人間の食事と食文化 2) 食品と食品群 3) 各種食品群の分類法 4) 食生活の変遷と栄養の問題点 5) 生活習慣病の予防 		
10	7	<ul style="list-style-type: none"> N S T (栄養サポートチーム) の活動 <ul style="list-style-type: none"> 1) N S T の役割と現状 2) それぞれの専門的な役割と連携 		

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	食事と健康
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	—		

設定理由

栄養食事療法とは治療の一環である。そのため栄養食事療法には制約がつく。しかし食事は本来楽しいものでなければならない。制約の中で、できるだけ患者にとっておいしく楽しい食事にし、栄養食事療法がより円滑に進み援助できるよう食事の基本と治療食について学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 食事療法としての病人食の特徴を理解できる。	5	1 食生活と栄養食事療法 1) 人間の食生活 2) 食生活と栄養食事療法 3) 栄養食事療法と看護の役割 2 医療・福祉の場における栄養食事療法 1) 疾患と栄養 2) 主な栄養関連疾患と食事療法 3) チーム医療と栄養食事療法 4) 医療保険制度と栄養食事療法 5) 福祉、介護保険制度と栄養食事療法	講 義	試 験
	10	3 病人食の特徴と種類 1) 病人食の特徴 2) 病人食の種類 3) 病人食と食品選択 4 食事療法の実際 1) 肥満食、高脂血症食 2) 糖尿病食 3) 肝臓病食 4) 動脈硬化食 5) 腎臓病食 6) 妊産婦・小児の栄養食事療法 7) 高齢者の栄養と食事		

テキスト 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	臨床薬理学総論
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

薬物が生体に作用して引き起こす種々の反応とその作用機序について学ぶ。薬物療法を実施するにあたっての必要な薬剤の基礎知識を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解する。	13	1 薬理学の概念 1) 薬理学とはなにか 2) 薬物療法の目的 3) 薬理作用と作用機序 4) 薬物動態（生体内運命）と薬効 5) 副作用と有害作用 6) 中毒 7) 薬物相互作用 8) 薬物療法に影響を与える因子 9) 薬物送達システム（DDS） 10) 新薬の開発（ヘルシンキ宣言と臨床試験） 11) 医薬品の安全な使用 12) 小児、妊婦、高齢者の薬物治療 13) 医薬品の管理	講 義	試 験
	3	14) 薬理学実習		
	14	2 末梢神経系作用薬 1) 自律神経作用薬 2) 筋弛緩薬 3) 局所麻酔薬 3 中枢神経系作用薬 1) 麻酔 2) 疼痛 3) 不眠症 4) 神経症、気分障害、統合失調症 5) てんかん 6) パーキンソン病 7) 認知症、アルツハイマー病 8) その他 4 呼吸器系作用薬 1) 気管支喘息 2) 呼吸器感染症等による激しい咳、痰 3) 慢性呼吸不全 4) 睡眠時無呼吸症候群 5) びまん性汎細気管支炎 5 抗炎症薬 6 循環器系作用薬		

		1) 高血圧 2) 心臓作用薬 3) 腎臓作用薬 4) 血液・造血器作用薬		
--	--	--	--	--

テキスト 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	臨床薬理学各論
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

薬物が生体に作用して引き起こす種々の反応とその作用機序について学ぶ。薬物療法を実施するにあたっての必要な薬剤の基礎知識を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解する。	7	1 消化器系作用薬 1) 胃炎、胃・十二指腸潰瘍 2) 食欲不振、消化不良 3) 嘔吐 4) 便秘・下痢 2 ホルモン系・生殖器系作用薬 1) ホルモン系作用薬 2) 生殖器系作用薬	講 義	試 験
	8	3 抗感染症薬 1) 抗感染症薬 2) 消毒薬 4 抗悪性腫瘍薬 5 漢方薬		

テキスト 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	微生物学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

感染症の発生には微生物が関係する。感染や免疫の知識をもつことで感染予防、感染症発症時の看護に活かす。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 病原微生物の特徴と生態に及ぼす影響や消毒・滅菌取扱法を理解する。	12	1 病原微生物学と院内感染 1) 感染と感染症 2) 病原微生物・常在菌叢 3) 結核・感染症サーベイランス 4) 化学療法と耐性菌 5) 院内感染 6) 消毒と滅菌 7) 感染性医療廃棄物 2 感染と免疫 1) 自己と非自己 2) ヒトの内部防御機構 3) 特異的防御機構の主役 4) 細胞性免疫 5) 体液性免疫 6) 能動免疫と受動免疫 7) アレルギー 8) サイトカイン 9) 感染に対する生体防御 10) 癌と免疫 11) 移植と免疫 12) 自己免疫病 13) 免疫不全 14) 免疫反応とその作用	講 義	試 験
	12	3 細胞学 1) 細胞学総論 2) 細胞学各論 4 ウイルス学 1) ウイルス学総論 2) ウイルス学各論 5 真菌学 1) 真菌学総論 2) 真菌学各論 6 寄生虫学 1) 寄生虫学総論 2) 寄生虫学各論	講 義	試 験
	6	7 微生物学実習	講 義	

テキスト 看護微生物学 医歯薬出版

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	病理学
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	—		

設定理由

疾病の原因や発生、形態と機能の変化の原理を理解することで、各障害別疾患の理解を深める。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 疾病の原因や発生病理、形態と機能及び代謝変化の原理を理解する。	5	1 病理学の概念 2 病因論 1) 内 因 2) 外 因 3) 医原病と公害病	講 義	試 験
	10	3 細胞・組織に生じる変化 1) 炎 症 2) 変 性 3) 壊 死 4) 循環障害 5) 萎 縮 6) 過形成 7) 腫 瘍		

テキスト 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	治療論 I
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4)		
実務経験	1) — 2) — 3) —		

設定理由

呼吸機能・循環機能が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 呼吸機能障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。	15	1 呼吸機能障害の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 肺癌 (2) 肺炎 (3) 気胸 (4) 肺結核 (5) 肺気腫 (6) 肺血栓塞栓症	講 義	試 験
1 循環機能障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。	15	1 循環機能障害の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 心筋梗塞 (2) 狭心症 (3) 弁膜症 (4) 心不全 (5) 慢性閉塞性動脈硬化症	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院
系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	治療論Ⅱ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5)		
実務経験	1) ー 2) ー 3) ー 4) ー 5) ー		

設定理由

内部環境調整機能・性生殖機能が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 内部環境調整障害（腎臓）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	10	1 内部環境調整機能障害（腎臓）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 腎不全 (2) 全身性疾患による腎障害 (3) ネフローゼ症候群	講 義	試 験
1 栄養・代謝障害（代謝）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	8	1 栄養・代謝障害（代謝）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 糖尿病 (2) 高脂血症 (3) 肥満とメタボリックシンドローム (4) 尿酸代謝障害	講 義	試 験
1 内部環境調整障害（内分泌）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	6	1 内部環境調整機能障害（内分泌）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 尿崩症 (2) 甲状腺機能亢進症 (3) 甲状腺機能低下症 (4) クッシング症候群 (5) アジソン病 (6) 褐色細胞腫 (7) 原発性アルドステロン症	講 義	試 験
1 性・生殖機能障害（女性生殖器）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	6	1 性・生殖機能障害（女性生殖器）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 子宮筋腫 (2) 卵巣腫瘍 (3) 子宮癌 (4) 子宮内膜症 (5) 月経異常 (6) 更年期障害 (7) 性感染症	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	治療論Ⅲ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	2年（全期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5) 6) 外部講師 7)		
実務経験	1) ー 2) ー 3) ー 4) ー 5) ー 6) ー 7) ー		

設定理由

栄養代謝・感覚機能が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 内部環境調整障害（泌尿器）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	4	1 内部環境調整機能障害（泌尿器）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 水腎症 (2) 神経因性膀胱 (3) 尿失禁 (4) 前立腺肥大症 (5) 膀胱腫瘍 (6) 前立腺癌 (7) 腎細胞癌 (8) 尿路感染 (9) 尿路結石 (10) 男性不妊症	講 義	試 験
1 栄養・代謝障害（消化器）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	14	1 栄養・代謝障害（消化器） 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 腫瘍（食道・胃・大腸・肝・胆・膵） (2) 炎症（胃・肝・胆・膵・大腸） (3) イレウス (4) 肝硬変	講 義	試 験
1 感覚機能障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。	4	1 感覚機能障害（眼・耳鼻咽喉・歯口腔・皮膚）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 【眼】 (1) 白内障 (2) 緑内障 (3) 網膜剥離 (4) 網膜症	講 義	試 験

	6	【耳鼻咽喉】 (1) 耳管狭窄症 (2) 慢性中耳炎 (3) メニエル病 (4) 鼻出血 (5) 慢性副鼻腔炎 (6) 咽頭癌 (7) 喉頭癌 【歯口腔】 (1) う歯 (2) 歯肉炎 (3) 口腔癌 (4) 顎関節症	講 義	試 験
	2	【皮膚】 (1) 熱傷 (2) 湿疹・皮膚炎 (3) アトピー性皮膚炎 (4) 蕁麻疹 (5) 上皮癌 (6) 白癬 (7) 褥瘡	講 義	

テキスト 系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学 [15] 歯・口腔 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	治療論IV
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	2年（全期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4)		
実務経験	1) ー 2) ー 3) ー 4) ー		

設定理由

手術療法の基礎を学び、各疾患の術前・術後管理を理解することで周手術期看護に活かす。
運動機能が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 手術療法の基礎を学び外科的治療を受ける患者の身体的アセスメントができる。	6	1 手術療法の基礎（総論） 1) 外科看護の基礎 （外科的診断法・手術侵襲と生体反応・腫瘍・炎症外傷・輸液と栄養管理・移植） 2) 外科的治療の基礎 （手術後疼痛と生体へ及ぼす影響・鎮痛法の利点と欠点など） 3) 術後合併症とその予防 2 麻酔法 1) 麻酔法 （1）全身麻酔・局所麻酔など	講 義	試 験
	6	2) 救急看護 （1）救急処置法の原則 （2） 気道確保 （3） 人工呼吸 （4） 心臓マッサージ （5） 静脈確保・薬物投与など	講 義	
	8	3 主な外科的治療（各論） 1) 甲状腺・副甲状腺疾患 甲状腺機能亢進症 2) 肺・気管支の疾患 肺癌・自然気胸 3) 乳腺の疾患 乳 癌 4) 食道の疾患 食道癌 5) 胃・十二指腸の疾患	講 義	試 験

		胃 癌 6) 腸・腹膜の疾患 大腸癌・急性腹膜炎・急性腹症 7) 肝臓・胆道系の疾患 胆石症 8) 膵臓の疾患 膵臓癌 9) ヘルニア 外鼠径ヘルニア		
	4	10) 心臓血管外科の疾患	講 義	
1 運動機能障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。	6	1 運動機能障害の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 骨折 (2) 骨粗鬆症 (3) 骨腫瘍 (4) 脊髄損傷 (5) 椎間板ヘルニア (6) 関節リウマチ	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔10〕運動器 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	治療論V
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	2年（全期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4)		
実務経験	1) ー 2) ー 3) ー 4) ー		

設定期理由

生体防御機能・脳神経が障害されることで起きる人体の変化とその治療を理解し、看護に活かす。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 生体防御機能障害（血液・造血器）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	6	1 生体防御機能障害（血液・造血器）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 貧血 (2) 白血病 (3) 悪性リンパ腫 (4) 血友病 (5) 多発性骨髄腫 (6) D I C	講 義	試 験
1 生体防御機能障害（免疫）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	4	1 生体防御機能障害（免疫）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 関節リウマチ (2) 皮膚筋炎・多発性筋炎 (3) 全身性エリテマトーデス	講 義	試 験
1 生体防御機能障害（感染症）をもつ患者の身体的アセスメントができる。	4	1 生体防御機能障害（感染症）の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 菌血症・敗血症 (2) H I V (3) 輸入感染症	講 義	
1 脳神経障害をもつ患者の身体的アセスメントができる。	10	1 脳神経障害(外科)の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) 脳梗塞 (2) 脳出血 (3) くも膜下出血 (4) 脳動脈瘤 (5) 脳腫瘍 (6) 高次脳機能障害	講 義	試 験
	6	2 脳神経障害(内科)の疾患 1) 主な疾患・検査・治療 (1) パーキンソン病 (2) 脊髄小脳変性症 (3) 筋萎縮性側索硬化症	講 義	試 験

系統看護学講座 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院

専門基礎分野

		科目別	時間数	単位	講師名
治療論Ⅰ	1年生後期	呼吸機能障害	15	1単位 (30)	法人講師
		循環機能障害	15		法人講師
治療論Ⅱ	1年生後期	内部環境調整機能障害（腎臓）	10	1単位 (30)	法人講師
		栄養・代謝機能障害（代謝）	8		法人講師
		内部環境調整機能障害（内分泌）	6		法人講師
		性・生殖機能障害（女性生殖器）	6		法人講師
治療論Ⅲ	2年生全期	内部環境調整機能障害（泌尿器・男性生殖器）	4	1単位 (30)	法人講師
		栄養・代謝機能障害（消化器）	14		法人講師
		感覚機能障害（眼）	4		法人講師
		感覚機能障害（耳鼻咽喉）	6		法人講師
		感覚機能障害（皮膚）	2		法人講師
治療論Ⅳ	2年生全期	手術療法（総論）	6	1単位 (30)	法人講師
		救急看護	6		法人講師
		外科的治療（各論）	8		法人講師
		外科的治療（心臓血管外科）	4		法人講師
		運動機能障害	6		法人講師
治療論Ⅴ	2年生全期	生体防御機能障害（血液・造血器）	6	1単位 (30)	法人講師
		生体防御機能障害（免疫）	4		法人講師
		生体防御機能障害（感染症）	4		法人講師
		脳神経障害（外科）	10		法人講師
		脳神経障害（内科）	6		法人講師

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	公衆衛生学
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

健康に影響を与える要因に対して行われる集団への組織的な衛生活動を学び、健康を保持・増進するために自分がどうかかわれるかを考える。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 社会における組織的な保健活動を学び総合保健医療の中における看護の役割を理解する。	8	1 公衆衛生の理解 1) 健康と公衆衛生 2) 公衆衛生のあゆみ 3) 公衆衛生の学術基盤 4) 公衆衛生の地域活動 5) 国際社会の公衆衛生 2 人口と公衆衛生 1) 人口の動向と公衆衛生 2) 人口の動向把握に必要な指標 3) 人口の動向と公衆衛生 3 環境と公衆衛生 1) 人間と生活環境 2) 健康問題と環境 3) 環境問題の動向と公衆衛生 4) 居住環境についての生活衛生	講 義	試 験
	10	4 食と公衆衛生 1) 健康づくりと食 2) 健康の維持と食品保健 3) 食品がもたらす健康障害 5 国民の健康と保健統計 1) 保健統計の基本的な考え方 2) 健康指標 3) 疾病統計 4) 公衆衛生における社会資源 5) 保健医療統計情報システムの発展 6 疾病の疫学と予防 1) 疾病の成立と予防 2) 疫学調査		

		<ul style="list-style-type: none"> 3) 感染性疾患の疫学と予防 4) 非感染性疾患の疫学と予防 		
	12	<ul style="list-style-type: none"> 7 公衆衛生と健康教育 <ul style="list-style-type: none"> 1) 健康教育の基本的考え方 2) 公衆衛生における健康教育 3) 健康教育と保健活動 4) 健康教育のすすめ 8 公衆衛生活動の実際 <ul style="list-style-type: none"> 1) 地域活動の公衆衛生学的意義 2) 母子保健 3) 学校保健 4) 地域保健対策 5) 産業保健 6) 老人保健福祉 7) 精神保健福祉対策 8) 歯科保健対策 9) 在宅ケア・訪問看護 10) 難病、障害者に関する対策 9 保健行政 <ul style="list-style-type: none"> 1) 保健行政（衛生行政）の基本的考え方 2) 保健行政の歴史的発展 3) 中央保健行政 4) 地域保健行政と保健所 5) 公衆衛生と地域保健医療福祉計画 6) 公衆衛生と環境計画 10 公衆衛生における今日的課題と展望 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護をめぐる公衆衛生の動き 2) これからの保健・医療・福祉 		

テキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	看護関係法規
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	2年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由

法の基礎知識ならびに保健医療福祉に関する法規を学び、看護師としての業務と責任を自覚する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 医療関係法規 全般の知識を学び法令の基本を理解する。	16	1 法の概念 1) 法の概念 2) 衛生法の意義 3) 衛生法の沿革 4) 衛生法の分類 5) 厚生行政のしくみ 2 看護法 1) 保健師助産師看護師法 (1) 目的 (2) 定義 (3) 保健師助産師看護師法構造と附属法令 (4) 免許 (5) 業務 (6) 試験 (7) 学校・養成所 (8) 医療過誤 (9) 沿革 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講 義	試 験
	12	3 医師法・医療法 1) 医師法 2) 医療法 4 関係資格法 5 医療を支える法 6 保健衛生法 1) 母体保護法 2) 母子保健法 7 薬務法 8 社会保険法		

		9 労働法と社会基盤整備		
	2	10 裁判傍聴		

テキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	社会福祉論
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	3年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	社会福祉士として独立型社会福祉士事務所 16年		

設定理由

社会福祉の理念や方法論を学び、諸制度および諸サービスに関する知識を学ぶ。そして、社会福祉活動が人間生活の維持・向上に必要な援助活動であることを学習する。また社会福祉と医療・保健連携を理解する。さらにその中での看護の役割を考える。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 社会福祉と医療、社会保障の関連について学び、対象に必要な社会資源の活用について理解できる。	10	1 社会保障制度と社会福祉 1) 社会保障制度 2) 社会福祉の法制度 2 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向	講 義	試 験
	8	3 医療保障 1) 医療保障制度の沿革 2) 医療保障制度の構造と体系 3) 健康保険と国民健康保険 4) 老人保健制度 5) 保険診療のしくみ 6) 公費負担医療 7) 国民医療費 8) 医療制度改革 4 介護保障 1) 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2) 介護保険制度の概要 3) 介護保険制度の課題と展望 5 所得保障 1) 所得保障制度のしくみ 2) 年金保険制度 3) 社会手当 4) 労働保険制度 6 公的扶助 1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2) 生活保護制度のしくみ 3) 低所得対策 4) 近年の動向		
	12	7 社会福祉の分野とサービス 1) 高齢者福祉 2) 障害者福祉 3) 児童家庭福祉 8 社会福祉実践と医療・看護 1) 社会福祉援助とは		

		<ul style="list-style-type: none"> 2) 個別援助技術（ケースワーク） 3) 集団援助技術（グループワーク） 4) 間接援助技術と関連援助技術 5) 社会福祉援助の検討課題 6) 連携の重要性 7) 社会福祉実践と医療・看護の連携 8) 連携の場面とその方法 9 社会福祉の歴史 <ul style="list-style-type: none"> 1) 福祉史の枠組み 2) 福祉史の3段階 3) 前近代の救済の諸相 4) 近代の救済の諸相 5) 現代社会への構造変化と生活支援 6) 戦後の社会福祉の再生 		
--	--	--	--	--

テキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	総合医療論
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	3 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) 医師として附属病院 14 年、他病院 28 年 2) 医師として附属病院 17 年、他病院 26 年 3) 医師として附属病院 46 年、他病院 7 年		

設定理由

現代の社会では社会情勢や、人々のライフスタイルの変化に伴い健康に対するニーズも多様化してきている。生活者が健康な生活を確保するために医療が果たす役割と課題を学ぶことで、保健・医療福祉の中で看護の果たす役割を考える。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 医療の発展と役割、現在の課題を学び、医療がどのような社会的期待を担っているか学ぶ。	3	1 援助と共感 1) 看護の「こころ」－援助と共感 2) 専門職としての医師と看護師 3) 援助される者と援助する者－共感的な人間関係 4) 病める者の自律への援助 －パターンリズムについて考える 2 医療と看護の原点 1) いのちと健康 2) 病の体験 3) 癒しの行為と癒しの和 4) 医療的ケアと管理 3 医療の歩みと医療観の変遷 1) 現代医学の起源 －古代から近代へ 2) 20 世紀の医療 3) わが国の医療がたどってきた道 4) 医療観のうつりかわり	講 義	試 験
	4	4 私たちの生活と医療 1) もしも私たちが病気やけがをしたら 2) 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3) 疾病の一次予防と生活習慣病の考え方 4) 高齢社会と世代間のきずな 5) 障害者のノーマライゼーションと新たな社会的きずな 6) こころの健康と精神医療		

2	5	<p>技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 先端医療技術の成果と私たちの新たな課題 2) 産業社会の発展と人間の健康 		
2	6	<p>成熟する社会と人々の意識変革</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療不信から「賢い患者」へ 2) インフォームド・コンセントと医療情報の開示 		
	7	<p>医療を見つめなおす新しい視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) はじめに—「医」における「論理」と「倫理」そして「管理」 2) 医療人類学と受療行動の研究 3) 医療と倫理 4) 臨床疫学—臨床医の合理的判断 5) 医療の管理と医療の評価 		
4	8	<p>健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療改革の波とともに始まる 21 世紀 2) 新世代の保健・医療の担い手について 3) プライマリーケアの新たな展開 4) 医療におけるケアの視点—こころの通った医療を取り戻す 5) これからの先端医療技術開発 6) 情報化社会と医療 7) 保健・医療の国際化 8) 地域包括医療システムの新しい展開 9) 保健・医療システムと地域住民の役割 10) 地球時代のケアと情報技術（IT）のネットワーク 		

専門分野 I

専門分野 I

目 的

看護の概念を理解し、看護の位置づけ、役割について学ぶ。

目 標

- 1 看護の目的と看護を構成する要素を学び、看護の概念を理解する。
- 2 看護が歴史的にどのように築きあげられてきたか、またこれからの看護について学ぶ。
- 3 健康の概念を明らかにし、健康の社会的意義について理解する。
- 4 健康と健康障害の関連について理解する。
- 5 保健医療チームと看護のかかわりを理解する。
- 6 新しい時代の看護に対するニーズの拡大について学ぶ。
- 7 人間に対する見方、考え方を学び看護の対象である人間を総合的に理解する。
- 8 看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する。
- 9 よりよい看護サービスを提供するために看護の原則を学び、医療チームの中でメンバーの一員として責任ある行動がとれる。
- 10 研究の基本的知識・態度を習得し、看護を多角的視野から考察し、質の高い看護を追求する能力を養う。

教科目の構成

基礎看護学	看護学概論	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論	9 単位 (240 時間)
	基礎看護技術論 I (環境調整技術)	1 単位 (15 時間)
	基礎看護技術論 II (食事・排泄援助技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 III (活動・休息、安全管理、安全確保の技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 IV (清潔・衣生活援助技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 V (感染予防、呼吸・循環を整える技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 VI (創傷管理技術、与薬の技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 VII (症状・生体機能管理、フィジカルアセスメント技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 VIII (コミュニケーション技術)	1 単位 (15 時間)
	看護過程の展開	1 単位 (30 時間)
臨床看護総論	1 単位 (30 時間)	
看護研究	1 単位 (15 時間)	

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	看護学概論
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：看護の概念を理解し、看護の位置づけ・役割について学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護の原点を学び看護の概念を理解できる。 2 健康の概念を明らかにし健康の社会的意義、保健医療チームと看護の関わりを理解できる。 3 看護職者としての職業倫理を学び自覚と責任を持つことの必要性が理解できる。 4 災害看護の特徴を理解できる。	14	1 看護とはなにか 1) 看護の原点 2) 看護の理念 3) 看護論 (1) ヴァージニア・ヘンダーソン (2) フローレンス・ナイチンゲール (3) ドロセア・E・オレム 4) 看護実践における研究	講 義	試 験
	6	2 看護の対象としての人間 1) 人間の欲求と健康 2) 健康のとらえ方 3) 国民衛生の統計 4) 健康関連行動 5) 現代の家族とライフサイクル 3 看護の提供者 1) 職業としての看護 2) 看護職の養成制度と就業状況 3) 看護職者の教育とキャリア開発 4) 看護職者の養成制度の課題 5) 看護職者の倫理		
	4	4 看護の提供のしくみ 1) サービスとしての看護 2) 看護サービス提供の場 3) 看護をめぐる制度と政策 4) 看護サービスの管理 5) 医療安全と医療の質保証		
	6	5 広がる看護の活動領域 1) 看護の国際協力 2) 災害時における看護		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院
 看護倫理 見ているものが違うから起こること 医学書院
 よくわかる 看護者の倫理綱領 照林社

専門分野 I

基礎看護技術論 9 単位 (240 時間)

設定理由：看護の対象の理解と看護を実践する上で基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論 I (環境調整技術)
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年 (前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 環境調整の意義と援助方法が理解できる。	11	1 環境の意義	講 義	試 験
		2 病室の環境のアセスメント		
		3 環境調整の技術		
		1) ベッド周囲の環境整備 2) ベッドメイキング 3) リネン交換		
2 環境調整の援助ができる。	4	4 環境調整の援助	演 習	実技試験
		1) ベッドメイキング		
		2) リネン交換		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論 II (食事・排泄援助技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年 (後期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 食事の意義と援助方法が理解できる。	12	1 食事の意義 2 食事・栄養摂取に影響する要因 3 食事・栄養状態のアセスメント 4 食事摂取の援助 1) 経口摂取 2) 食事摂取の自立困難な患者の援助 5 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 経静脈栄養法	講 義	試 験
2 排泄の意義と援助方法が理解できる。	10	1 排泄の意義 2 医療安全の概念と安全管理対策 3 排泄のアセスメント 4 自然な排便・排尿を促す援助 1) トイレ 2) ポータブルトイレ 3) 床上排泄 4) おむつ交換 5 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿 6 排便を促す援助 1) 浣腸 2) 摘便		
3 食事・排泄の援助ができる。	8	6 食事援助の実際 1) 経口摂取の援助 7 排泄援助の実際 1) 尿器・便器の介助 2) おむつ交換	演 習 演 習 演 習	実技試験 実技試験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 II 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論Ⅲ (活動・休息、安全管理、 安楽確保の技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 活動・休息の 意義と援助方法が 理解できる。	16	1 活動・休息の意義	講 義	試 験
		2 活動・休息に影響する要因		
		3 活動・休息のアセスメント		
		4 基本的活動・休息の援助		
		1) ボディメカニクス		
		2) 体位変換		
		3) 歩行		
		4) 移乗・移送(車いす・ストレッチャー)		
		5) 睡眠・休息を促す援助		
		5 基本的活動の実際		
		1) 体位変換	演 習	実技試験
		2) 移乗・移送(車いす)	演 習	
		3) 移乗・移送(ストレッチャー)	演 習	
2 安全管理の意 義と方法がわか る。	6	9 安全管理の意義	講 義	
		10 医療安全の概念と安全管理対策		
3 安楽確保の意 義と方法がわか る。	8	12 安楽確保の意義	講 義	
		13 安楽確保のための援助		
		1) 体位保持	演 習	実技試験
		2) 電法	演 習	

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
 医療安全ワークブック 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論Ⅳ (清潔・衣生活援助技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 清潔・衣生活の意義と援助方法が理解できる。	18	1 清潔・衣生活の意義 2 清潔・衣生活に影響する要因 3 清潔・衣生活のアセスメント 4 清潔行動・衣生活の自立度に応じた援助 1) 入浴 2) 全身清拭 3) 部分浴 4) 陰部洗浄 5) 洗髪 6) 口腔ケア 7) 寝衣交換 8) 整容	講 義	試 験
2 清潔・衣生活の援助ができる。	12	5 清潔・衣生活の援助 1) 全身清拭・寝衣交換・足浴 2) 洗髪 3) 口腔内の清拭	演 習 演 習 演 習	実技試験 実技試験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論V (感染予防、呼吸・循環を整える技術)
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	1年(前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 感染予防の意義と援助方法が理解できる。	11	1 感染予防の意義 2 感染に影響する要因 3 感染予防のアセスメント 4 標準予防策 5 感染経路別予防策 6 洗浄・消毒・滅菌 7 無菌操作 8 感染性廃棄物の取り扱い	講 義	試 験
2 呼吸・循環・体温調整の意義と援助方法が理解できる。	11	1 呼吸調整の意義 2 呼吸調整のアセスメント 3 酸素吸入療法 1) 酸素吸入の適応 2) 酸素ボンベ 3) 中央配管方式 4) 酸素マスク・経鼻カニューレ 4 排痰法 1) 体位ドレナージ 2) 吸引(口腔・鼻腔・気管内吸引) 5 持続吸引(胸腔ドレナージ) 6 吸入 7 循環・体温調整の意義 8 循環・体温調整のアセスメント 9 循環・体温調整の援助	講 義	
3 感染予防・呼吸・循環を整える援助ができる。	8	10 感染予防の援助 1) 標準予防策 2) 無菌操作	演 習 演 習	実技試験 実技試験
		11 呼吸・循環を整える援助 1) 酸素吸入療法(経鼻カニューレ) 2) 口腔吸引・鼻腔吸引	演 習 演 習	実技試験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論VI (創傷管理技術、与薬の技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (後期)
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 創傷管理の意義と援助方法が理解できる。	10	1 創傷管理の意義 2 創傷のアセスメント 3 創傷処置 4 褥瘡予防	講 義	試 験
2 与薬の意義と援助方法が理解できる。	20	1 与薬における看護師の役割 2 薬物療法の基本 3 薬剤の種類と取り扱い方法 1) 誤薬の防止対策 2) チューブ・ライントラブルの防止対策 3) 針刺し事故防止対策 4 与薬の方法と効果の観察 1) 経口与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬 7) 注射 5 輸血管理	講 義	

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論Ⅶ (症状・生体機能管理、フィジカルアセスメント技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 生体機能のモニタリングの意義と援助方法が理解できる。	6	1 生体機能のモニタリングの意義 2 検体検査 (尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、脳脊髄液) 3 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) 4 血糖測定 5 心電図 6 生体検査	講 義	試 験
2 フィジカルアセスメントの意義と援助方法が理解できる。	6 12	1 フィジカルアセスメントの意義 2 問診、視診、触診、聴診、打診の基本技術 3 バイタルサインの意義 4 バイタルサインの測定と評価 5 意識レベルの評価 6 身体計測と評価 7 系統別のアセスメント 1) 呼吸器系 2) 循環器系 3) 消化器系 4) 感覚機能 5) 運動機能 6) 高次脳機能	講 義 講 義 演 習	
3 フィジカルアセスメントの援助ができる。	6	8 フィジカルアセスメントの技術 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測		実技試験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論Ⅷ (コミュニケーション技術)
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年	1 年 (後期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護におけるコミュニケーションの意義と方法がわかる。	4	1 コミュニケーションの構造とプロセス 1) コミュニケーションの意義と目的 2) 医療におけるコミュニケーション 3) コミュニケーションの構成要素と成立過程	講 義	試 験
	11	2 コミュニケーション技法 1) コミュニケーションの基本 2) 円滑なコミュニケーション 3) 言語的・非言語的コミュニケーション 4) 面接技法 3 コミュニケーションに障害のある人々への対応	演 習	

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	看護過程の展開
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (後期)
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護過程の意義、構成要素、各段階を理解する。	4	1 看護過程とは 1) 看護過程の定義 2) 看護過程の意義 3) 問題解決過程と看護過程 2 看護過程を展開するために必要な能力 3 看護過程の構成要素 4 看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 看護上の問題の明確化 3) 看護計画の立案 4) 実践 5) 評価 6) 看護過程の記録	講 義	レポート
2 看護計画立案の具体的方法を理解する。	16	5 看護過程の展開 1) 情報の収集 2) 情報の確認・整理 3) 情報の分析・解釈 4) 情報の統合と全体像の把握 5) 看護上の問題の明確化 6) 優先順位の決定 7) 看護目標の設定 8) 看護計画の立案		
3 対象の看護計画を立案し記述する。	10	6 看護過程の実際 1) 事例展開		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院
 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	臨床看護総論
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	2 年 (前期)
方法	講義		
講師名	専任教員 1) 法人講師 2) 3) 4) 5) 6)		
実務経験	1) — 2) — 3) — 4) — 5) — 6) —		

設定理由：主要症状・治療・処置を受けている患者の看護を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 化学療法を受ける患者の看護が理解できる。	6	1 化学療法施行時のトラブルと対策 2 化学療法中の症状マネジメント 1) 骨髄抑制 2) 脱毛 3) 悪心・嘔吐 4) 全身倦怠感 5) 過敏症 6) 腎障害 7) 下痢・便秘 8) 末梢神経障害 3 化学療法を受ける患者・家族へのサポート	講 義	試 験
2 放射線治療を受ける患者の看護が理解できる。	4	4 人体に対する放射線の影響 5 放射線治療と看護 1) 照射期間中の患者指導 2) 放射線治療と食事療法 3) 治療終了後の患者指導 6 放射線防護と健康管理	講 義	
3 症状に応じた看護が理解できる。	10	7 呼吸困難のある患者の看護 8 倦怠感のある患者の看護	講 義	
4 看護事故防止について理解できる。	6	9 看護における安全 1) ヒューマンエラー 10 医療看護におけるリスクマネジメント 1) リスクとリスクマネジメント 2) インシデント・アクシデント報告 11 看護業務の特性と医療事故 12 専門職としての責任	講 義	試 験

5 医療用機器の原理と実際が理解できる。	4	13 診療補助に伴う援助技術の実際 1) 医療用機器の原理と実際 (1) 輸液ポンプの操作 (2) 心電図モニターの使用 (3) 病院における医療用機器の使用の実際	講 義	
----------------------	---	--	-----	--

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院
系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	看護研究
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年	3 年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 14 年		

設定理由：看護をマネジメントする基礎として、看護現象を客観的・科学的・論理的にとらえる看護研究の知識・態度を学ぶ。またケーススタディを通し、自己の看護観を深める。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護における研究の意義と必要性を理解し研究の基礎が理解できる。	7	1 看護における研究の意義と必要性 2 研究方法 1) 質的研究 2) 量的研究	講 義	レポート 実技試験
	7	3 看護研究のプロセス 1) 問題の抽出、テーマの決定 2) 研究計画書の作成 3) データの収集 4) データの分析 5) 研究結果の解釈と評価		
2 ケーススタディを通し看護を多角的視点から考察できる。	1	6) プレゼンテーション		

テキスト 看護研究こころえ帳 医歯薬出版

わかりやすい ケーススタディの進め方 照林社

基礎看護学実習

目 的

看護の対象を知り、日常生活を支えるための基礎となる看護実践能力を養う。

目 標

- 1 人間が理解できる。
- 2 生活上の問題がわかり、日常生活を支えるために必要な看護が実践できる。

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護学実習 I
単位・時間	1 単位 45 時間	対象学年	1 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1)2)		
実務経験	1) — 2) —		

目 的

看護の対象と必要な日常生活援助が理解できる。

目 標

- 1 対象が統合された存在であることが理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
- 2 患者に必要な日常生活の援助がわかる。
 - 1) 患者の日常生活援助がわかる。
 - 2) 患者に応じた援助の方法がわかる。
 - 3) 実施した日常生活援助を評価できる。
- 3 「人間」について考えることができる。
- 4 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 看護師と行動を共にし、見学する実習を 1 日行う。
- 3 日常生活の援助が必要な患者を受け持ち、看護を実践する。
- 4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 基礎看護学実習 I の評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護学実習 II
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年	1 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1)2)		
実務経験	1) — 2) —		

目 的

対象に必要な日常生活援助のための看護実践能力を養う。

目 標

- 1 対象が統合された存在であることが理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
- 2 患者に必要な日常生活の援助が実施できる。
 - 1) 日常生活の未充足な部分がわかる。
 - 2) 援助の必要性がわかる。
 - 3) 対象に応じた援助の方法がわかる。
 - 4) 援助が実施できる。
 - 5) 実施した援助を評価できる。
- 3 人間らしく生きていくことを支える看護について考えることができる。
- 4 退院後の生活がわかる。
- 5 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。

実習方法

- 1 実習前のオリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 日常生活の援助が必要な患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。
- 4 学生および教員でグループワークを 1 日 30 分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 基礎看護学実習 II の評価表を用いる。

2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

専門分野Ⅱ

成人看護学

1年全期・2年全期

7単位（180時間）

目的

成人期にある対象の特徴と健康上の要求、健康に影響する環境の諸因子を理解し、対象とその家族の健康上の問題解決のための援助を実践するための知識・技術・態度を養う。

目標

- 1 成人期にある対象の発達段階の特徴を理解できる。
- 2 成人期にある対象の健康に影響する因子を理解し、健康の保持増進、疾病予防のための看護の役割が理解できる。
- 3 成人期における健康障害に伴う諸問題をとらえ、健康の状態に応じた看護が理解できる。

教科目の構成

成人看護学	成人看護の対象	1単位（30時間）
	成人保健	1単位（15時間）
	経過別看護Ⅰ	1単位（30時間）
	経過別看護Ⅱ	1単位（15時間）
	成人看護援助論Ⅰ	1単位（30時間）
	成人看護援助論Ⅱ	1単位（30時間）
	成人看護援助論Ⅲ	1単位（30時間）

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護の対象
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	1年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：人間のライフサイクルの中で成人期は人生の大半を占める。成人各期の発達段階の特徴をとらえ、成人期にある対象の理解を深める。また、成人期にある対象が生活者としてその人らしく生きるための援助に必要な理論を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 成人期にある対象の発達段階の特徴を理解できる。	10	1 対象の理解：大人になること、大人であること 1) 生涯発達の特徴 2) 各発達段階の特徴（青年期、壮年期、中年期） 2 対象の生活：働いて生活を営むこと 1) 生活を営むこと 2) 仕事を持ち、働くこと 3) 家族からとらえる大人 4) 人生をたどること	講 義	試 験
2 成人の能力に応じた看護アプローチの基本が理解できる。	20	3 成人への看護アプローチの基本 1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 2) 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 3) 人びとの集団における調和や変化を促す看護アプローチ 4) チームアプローチ 5) 意思決定支援 6) 家族支援 7) 急激な健康破綻と危機 8) エンパワメント・エデュケーション 9) アドヒアランス 10) 自己効力		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	成人保健
単位・時間	1単位 15時間	対象学年	1年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：成人期は社会を支える年代である。成人期にある対象の健康は本人のみならず、家族、社会全体にも重要な意味がある。保健の動向から成人期の健康障害の特徴を理解する。また、健康維持増進・疾病予防のための支援として継続看護や健康教育の必要性について学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 成人期にある対象の健康に影響する因子を理解し、健康の保持増進、疾病予防のための必要性が理解できる。	9	1 生活と健康 1) 大人の生活からとらえる健康 2) 生活と健康をまもりはぐくむシステム 2 健康生活をはぐくむ看護 1) 健康生活をはぐくむ看護とは 2) 健康をはぐくむ看護の場と活動 3 生活ストレスと看護 1) 健康バランスの構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 3) 生活行動がもたらす健康問題とその予防 4 がん共生を促す看護技術 1) がんヘルスリテラシーの促進 2) がんとの共生を支えるサポートグループ	講 義	試 験
2 継続看護と健康教育のための看護アプローチの基本が理解できる。	6	1 退院支援の看護 1) 療養の場の移行に伴う看護援助の必要性 2) 退院支援とはなにか 3) 退院支援活動		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	経過別看護Ⅰ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	1年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：経過別看護は看護の方向性を示す。急性期・慢性期・回復期・終末期の特徴と各経過にある患者の特徴を理解する。そして、各経過に必要な看護アプローチの理論と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 経過別看護の概念と必要性を理解する。	2	1 経過別看護とは 1) 経過別看護の概念 2) 各期の特徴の理解	講 義	試 験
2 急性期にある患者の生体反応や健康状態の特徴とその援助の方法を理解する。	8	2 急激な身体侵襲により急性期にある患者 1) 侵襲とは、急性期とは 2) 侵襲に対する生体反応 3) 成人が遭遇する急激な生体侵襲 4) 急激な身体侵襲下にある急性期患者の健康状態の特徴 5) 侵襲により急性期にある人への看護アプローチの基本		
3 慢性的な経過をたどる健康障害の患者の特徴とその援助の方法を理解する。	8	3 慢性的な経過をたどる健康障害の患者の看護 1) 慢性的な経過をたどる健康障害のある患者の理解 2) 慢性的な経過をたどる健康障害のある患者の看護援助		
4 リハビリテーションを必要とする患者の健康障害の特徴とその援助の方法を理解し、健康の再構築への支援方法を理解する。	8	4 リハビリテーションを必要とする患者 1) リハビリテーションの概念 2) リハビリテーションの基本的な枠組み 3) リハビリテーションを必要とする対象 4) 患者・家族が直面する課題 5) リハビリテーションアプローチと看護の役割 5 健康の再構築への支援を必要としている看護の役割 1) 継続看護の充実 2) 患者支援教育 3) 患者や家族にとってのセルフケア 4) ソーシャルサポート		

5 各期における看護過程の展開の方法を理解する。	4	6 看護過程の展開 事例を使用し急性期・回復期・慢性期にある患者の看護過程の展開		
--------------------------	---	---	--	--

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	経過別看護Ⅱ
単位・時間	1単位 15時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：経過別看護Ⅰ同様各期における患者の特徴を理解する。特にここでは、終末期における患者の特徴を理解する。そして、終末期に必要な看護アプローチの理論と援助方法を学ぶ。また、緩和ケアにおける看護の考え方や看護の役割を考える。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 終末期の援助を必要としている対象の特徴とその援助の方法を理解する。	6	1 終末期の援助を必要としている対象 1) 終末期の定義 2) 終末期にある人々の特徴 3) 終末期に必要な援助	講 義	試 験
2 緩和ケアの考え方がわかる。	6	2 緩和ケアとは 1) 緩和ケアとは 2) 緩和ケアにおける倫理的問題 3) 緩和ケアの考え方 4) 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルケア 5) 家族ケア		
3 終末期における看護過程の展開の方法を理解する。	3	3 看護過程の展開 事例を通し終末期にある患者の看護過程の展開		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅰ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	1年(後期)
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) — 2) — 3) —		

設定理由：人は疾患により様々な機能障害が生じる。機能障害からの回復のため検査・治療を受けることとなる。ここでは呼吸機能・循環機能・内部環境調整機能障害を持つ対象と症状別看護を理解し、看護過程の展開を学習する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 呼吸機能に障害をもつ患者の看護が理解できる。	12	1 看護概論 2 主な症状と看護 1) 咳嗽 2) 喀痰 3) 喀血 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) 胸痛 3 疾患をもつ患者の看護 1) 肺炎 2) 結核 3) 気管支喘息 4) 肺がん 5) 慢性閉塞性肺疾患 6) 肺血栓塞栓 4 治療、処置別看護 1) 薬物療法 2) 吸入療法 3) 酸素療法 4) 人工呼吸療法 5) 呼吸理学療法 6) 気管切開 7) 胸腔ドレナージ 5 看護過程の展開 肺がん患者の看護過程の展開	講 義	試 験
2 循環機能に障害をもつ患者の看護が理解できる。	12	1 看護概論 2 主な症状と看護 1) 胸痛 2) 動悸 3) 浮腫 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) 倦怠感 3 疾患をもつ患者の看護 1) 心筋梗塞 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 不整脈 5) 慢性閉塞性動脈硬化症 4 治療、処置別看護 1) 薬物療法 2) 手術療法 3) 心臓カテーテル検査 4) 血行動態モニタリング 5) 心電図 6) 心臓リハビリテーション	講 義	試 験

		5 看護過程の展開 心筋梗塞の患者の看護過程の展開		
3 内部環境調整 機能障害をもつ 患者の看護が理 解できる。 (腎機能障害)	6	1 看護概論 2 主な症状と看護 1) 浮腫 2) 高血圧 3 疾患をもつ患者の看護 1) 慢性腎不全 2) 急性腎不全 3) ネフローゼ症候群 4 治療、処置別看護 1) 薬物療法 2) 透析	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院
系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器 医学書院
系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅱ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) — 2) — 3) —		

設定理由：人は疾患により様々な機能障害が生じる。機能障害からの回復のため検査・治療を受けることとなる。ここでは内部環境調整機能障害・栄養代謝機能障害を持つ対象と症状別看護を理解し、看護過程の展開を学習する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 内部環境調整機能障害をもつ患者の看護が理解できる。 (内分泌障害)	6	1 看護概論 2 疾患をもつ患者の看護 1) 尿崩症 2) 甲状腺機能亢進症 3) 甲状腺機能低下症 4) クッシング症候群・クッシング病 5) アジソン病	講 義	試 験
2 栄養・代謝機能に障害をもつ患者の看護が理解できる。 (代謝障害)	6	1 看護概論 2 疾患をもつ患者の看護 1) 糖尿病 2) 高脂血症 3) 肥満 4) 高尿酸血症 3 看護過程の展開 糖尿病患者の看護過程の展開		
3 栄養・代謝機能に障害をもつ患者の看護が理解できる。 (消化機能障害)	12	1 看護概論 2 主な症状と看護 1) 食欲不振と体重減少 2) 嘔気・嘔吐 3) 吐血・下血 4) 下痢 5) 便秘 6) 腹痛 7) 腹部膨満 8) 黄疸 9) 肝性昏睡 3 疾患をもつ患者の看護 1) 腫瘍（食道・胃・大腸・肝・膵） 2) 炎症（腹膜・胃・肝・胆・膵・大腸） 3) 胆石症 4) 肝硬変 5) イレウス 4 看護過程の展開 肝硬変患者の看護過程の展開	講 義	試 験
4 性・生殖機能障害をもつ患者	6	1 看護概論 2 主な症状と看護	講 義	試 験

<p>の看護が理解できる。 (女性生殖器)</p>		<p>1) 性器出血 2) 帯下 3) 疼痛 4) 搔痒感 5) 自律神経症状・不定愁訴 3 疾患をもつ患者の看護 1) 腫瘍(子宮・卵巣) 2) 炎症(膣・子宮) 3) 更年期障害 4) 月経異常・月経随伴症状 4 治療、処置別看護 1) ホルモン療法 2) 外診・内診</p>		
-------------------------------	--	--	--	--

テキスト 系統看護学講座 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅲ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5) 専任教員 6)		
実務経験	1) — 2) — 3) — 4) — 5) — 6) —		

設定理由：人は疾患により様々な機能障害が生じる。機能障害からの回復のため検査・治療を受けることとなる。ここでは生体防御機能障害を持つ対象と症状別看護を理解し、看護過程の展開を学習する。また、手術を受ける対象の術前術後の特徴を理解し、主な手術を受ける患者の看護と看護過程の展開を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 手術を受ける患者の術前術後の看護の特徴と援助方法について理解する。 (手術を受ける患者の看護)	12	1 周手術期看護の概論 1) 手術を受ける患者の状況 2) チーム医療と看護師の役割 3) インフォームドコンセント 4) 周手術期における安全管理 2 外来における手術前の患者の看護 1) 外来診療の変化に応じた外来看護師の役割 2) 外来における手術前の患者の看護 3 手術前患者の看護 1) 手術前患者のアセスメントと看護目標 2) 手術前患者の看護 (1) オリエンテーション (2) 術前訓練 (3) 手術前日の看護 (4) 手術当日の看護 4 手術後患者の看護 1) 手術後の回復を促進するための看護 2) 術後合併症予防と発症時の対応 3) 創傷治癒の促進 4) 自己管理に向けた援助 5 甲状腺・上皮小体手術患者の看護 1) 手術前看護 2) 手術後の看護 6 肺切除患者の看護 1) 手術前看護 2) 手術後の看護	講 義	試 験

		<p>7 乳房切除術を受ける患者の看護 1) 手術前看護 2) 手術後の看護</p> <p>8 胃手術患者の看護 1) 手術前看護 2) 手術後の看護</p> <p>9 大腸手術患者の看護 1) 手術前看護 2) 手術後の看護</p> <p>10 肝・膵臓切除患者の看護 1) 手術前看護 2) 手術後の看護</p> <p>11 胆のう・胆道の手術を受ける患者の看護 1) 手術前看護 2) 手術後の看護</p>		
2 手術室の看護について理解する。 (手術室看護)	6	<p>1 手術中の看護の要点 1) 手術療法と患者の状況 2) 手術室の安全管理</p> <p>2 手術室における看護の展開 1) 入室前の準備 2) 入室時の看護 3) 麻酔導入時の看護 4) 手術体位とその影響 5) 手術中の看護 6) 手術終了時の看護</p> <p>3 手術室の環境管理</p>	講 義	試 験
3 生体防御機能障害をもつ患者の看護が理解できる。 (血液・造血器)	4	<p>1 看護概論</p> <p>2 主な症状と看護 1) 出血傾向 2) 貧血</p> <p>3 疾患をもつ患者の看護 1) 白血病 2) 悪性リンパ腫</p>	講 義	試 験
4 生体防御機能障害をもつ患者の看護が理解できる。 (免疫)	4	<p>1 看護概論</p> <p>2 主な症状と看護 1) 発疹 2) 関節症状 3) 筋肉症状 4) 皮膚・粘膜症状 5) 口渇・眼の乾き 6) レイノー現象</p> <p>3 疾患をもつ患者の看護 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス 3) 多発性筋炎・皮膚筋炎</p> <p>4 治療、処置別看護 1) 薬物療法</p>	講 義	
5 生体防御機能障害をもつ患者の看護が理解できる。 (感染症)	4	<p>1 看護概論</p> <p>2 主な症状と看護 1) 発熱</p> <p>3 疾患をもつ患者の看護 1) HIV 2) 敗血症 3) 日和見感染症</p> <p>4 治療、処置別看護</p>	講 義	

		1) 感染防御		
--	--	---------	--	--

テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

成人看護援助論内訳

3 単位 (90 時間)

		科 目 別	時間数	単 位	講 師 名
成人看護援助論 I	1 年 後 期	呼吸機能に障害をもつ患者の看護	12	1 単位 (30)	法人講師
		循環機能に障害をもつ患者の看護	12		法人講師
		内部環境調整機能に障害をもつ患者の看護 (腎臓)	6		法人講師
成人看護援助論 II	2 年 前 期	内部環境調整機能に障害をもつ患者の看護 (内分泌)	6	1 単位 (30)	法人講師
		栄養・代謝機能に障害をもつ患者の看護 (代謝)	6		
		栄養・代謝機能に障害をもつ患者の看護 (消化器)	12		法人講師
		性・生殖機能に障害をもつ患者の看護 (女性生殖器)	6		法人講師
成人看護援助論 III	2 年 後 期	手術を受ける患者の看護	12	1 単位 (30)	法人講師
		手術室の看護	6		法人講師
		生体防御機能に障害をもつ患者の看護 (血液・造血器)	4		専任教員
		生体防御機能に障害をもつ患者の看護 (免疫)	4		法人講師
		生体防御機能に障害をもつ患者の看護 (感染症)	4		法人講師

成人看護学実習

2年後期・3年全期

6単位（270時間）

目 的

成人期にある対象を総合的に理解し、健康レベルに応じた看護を実践するための看護実践能力を養う。

目 標

- 1 成人期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴や発達段階を総合的に理解できる。
- 2 対象の健康問題がわかり、健康レベルに応じた看護が実践できる。

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学実習Ⅰ
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	2年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

目 的

慢性疾患をもち生涯セルフコントロールを要する成人期の対象を理解し、対象の自己管理能力を高めるための看護実践能力を養う

目 標

- 慢性期にある成人期の患者を理解できる。
 - 身体的側面がわかる。
 - 精神的側面がわかる。
 - 社会的側面がわかる。
 - スピリチュアル的側面がわかる。
- 患者の自立・セルフケア行動を高める援助を実践できる。
 - 病態生理・検査・治療がわかる。
 - 日常生活の制限がわかる。
 - 異常の早期発見、合併症予防の援助を実践できる。
 - セルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立への援助を実践できる。
 - 疾病、障害受容の状況がわかる。
- 患者の家族・支える人への援助の必要性が理解できる。
 - 家族・支える人に及ぼす影響がわかる。
 - 家族・支える人の思いや受け止め方がわかる。
 - 家族・支える人が患者の日常生活を支えるために必要な具体的な支援がわかる。
- 「病気とともに生きる」ことについて考えることができる。
- 退院後に必要な支援がわかる。
 - 対象に必要なケアがわかる。
 - 対象に関係する職種と役割がわかる。
 - 対象に必要な社会資源がわかる。
- 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 意思表示ができる。
 - 必要な学習を継続できる。
 - リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 守秘義務を遂行することができる。
 - 自己の健康管理ができる。
 - 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 成人期にある慢性期の患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 透析室での実習を1日行う。
- 4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。
- 5 学生および教員でグループワークを1日30分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 成人看護学実習 I の評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学実習Ⅱ
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	3年
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院16年		

目 的

生命の危機的状況にある成人期の対象を理解し、生命の維持・機能回復へ向けての看護実践能力を養う。

目 標

- 急性期にある成人期の患者を理解できる。
 - 身体的側面がわかる。
 - 精神的側面がわかる。
 - 社会的側面がわかる。
 - スピリチュアル的側面がわかる。
- 生命維持、回復のための援助を実践できる。
 - 病態生理・検査・治療がわかる。
 - 異常の早期発見ができる。
 - 予測される合併症がわかる。
 - 救命救急の対処方法がわかる。
 - 症状、苦痛を緩和するための援助を実践できる。
- 手術室における看護がわかる。
 - 手術を受ける患者の特徴がわかる。
 - 手術室における看護師の役割がわかる。
- 患者の家族・支える人への援助の必要性が理解できる。
 - 家族・支える人に及ぼす影響がわかる。
 - 家族・支える人の思いや受け止め方がわかる。
 - 家族・支える人が患者の日常生活を支えるために必要な具体的な支援がわかる。
- 社会復帰への援助ができる。
 - 社会復帰へ向けてのアセスメントができる。
 - セルフケア能力獲得のための援助を実践できる。
- 突発的な生命の危機状況について考えることができる。
- 退院後に必要な支援がわかる。
 - 対象に必要なケアがわかる。
 - 対象に関係する職種と役割がわかる。
 - 対象に必要な社会資源がわかる。
- 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。

- 1) 意思表示ができる。
- 2) 必要な学習を継続できる。
- 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
- 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
- 5) 守秘義務を遂行することができる。
- 6) 自己の健康管理ができる。
- 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 成人期にある急性期の患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 手術室での実習を1日行う。
- 4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。
- 5 学生および教員でグループワークを1日30分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 成人看護学実習Ⅱの評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学実習Ⅲ
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	3年
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院16年		

目的

人生の終末にある成人期の対象を理解し、対象の QOL を高めるための看護実践能力を養う。

目標

- 1 終末期にある成人期の患者を理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
- 2 苦痛の緩和のための援助を実践できる。
 - 1) 病態生理・検査・治療がわかる。
 - 2) トータルペインについてアセスメントできる。
 - 3) 症状、苦痛を緩和するための援助を実践できる。
- 3 患者の家族・支える人への援助の必要性が理解できる。
 - 1) 家族・支える人に及ぼす影響がわかる。
 - 2) 家族・支える人の思いや受け止め方がわかる。
 - 3) 家族・支える人が患者の日常生活を支えるために必要な具体的な支援がわかる。
- 4 自己の死生観について考えることができる。
- 5 退院後に必要な支援がわかる。
 - 1) 対象に必要なケアがわかる。
 - 2) 対象に関係する職種と役割がわかる。
 - 3) 対象に必要な社会資源がわかる。
- 6 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 成人期にある終末期の患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。
- 4 学生および教員でグループワークを1日30分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 成人看護学実習Ⅲの評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

成人看護学実習学習内容

系統	主要症状	治療・処置・検査	主要疾患
呼吸器系障害	呼吸困難 咳嗽 喀痰 咯血 胸痛 チアノーゼ	手術療法、安静療法、薬物療法、放射線療法 化学療法、減感作療法、ドレナージ、喀痰検査 肺機能検査、胸部X-P、気管支鏡検査 胸腔穿刺、動脈血ガス分析、胸部CT 肺シンチグラフィ、ツベルクリン反応	肺癌 自然気胸 胸部外傷 肺気腫 気管支喘息 肺炎 慢性閉塞性肺疾患
循環器系障害	浮腫 動悸 胸痛 心悸亢進 不整脈 チアノーゼ 呼吸困難 息切れ 出血 血圧異常 褥瘡	手術療法、安静療法、薬物療法、輸血療法 人工臓器、ECG、ホルター心電図、負荷心電図 負荷心電図（トレッドミルテスト法）、 胸部X-P、心エコー、PCI、ペースメーカー 心臓カテーテル及び血管造影	心筋梗塞 狭心症 心不全 大動脈瘤 洞不全症候群 高血圧症 慢性閉塞性動脈硬化症
血液リンパ系障害	出血 貧血 易感染	安静療法、薬物療法、輸血療法、化学療法 食事療法、輸液療法、クリーンルーム 血液像分類、骨髄検査、移植	白血病 鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血 血小板減少性紫斑病
消化器系障害	嘔気、嘔吐 吐血、下血 腹部膨満 腹水 食欲不振 疼痛 黄疸 肝性脳症	手術療法、安静療法、薬物療法、化学療法 人工臓器、輸液療法、TPN、消化管内視鏡 及び造影、X-P、糞便検査、肝機能検査 腹部エコー、ERCP、PTCD、腹部アンギオグラフィ PEG	炎症（肝・膵・胆嚢） 胆石症 イレウス 肝硬変 消化性潰瘍 潰瘍性大腸炎 癌（食道・胃・大腸・肝・膵・胆嚢）
代謝系障害 内分泌・	口渇 多尿 多飲 やせ 肥満	手術療法、薬物療法、食事療法、運動療法 基礎代謝率、血糖測定、尿糖測定、OGTT IRI ² 、血中ホルモン濃度、甲状腺シンチグラフィ ホルモン療法	甲状腺機能低下症 甲状腺機能亢進症 糖尿病 下垂体腫瘍
神 脳	意識障害	手術療法、薬物療法、食事療法、放射線療法	パーキンソン

	呼吸障害 運動障害 言語障害 嚥下障害 排泄障害 知覚障害 視神経障害	リハビリテーション、理学療法、脳室ドレナージ 人工臓器、腰椎穿刺、脳血管造影、CT、MRI 神経学的検査	筋萎縮性側索硬化症 下垂体腫瘍 脳腫瘍 脳出血 脳梗塞 脳動脈瘤 頭部外傷
免疫・感染系障害	疼痛 発熱 紅斑 発疹 神経精神症状 レイノー症	薬物療法（ステロイド療法）、安静療法 抗原抗体検査、LE細胞検査	全身性エリテマトーデス リウマチ
腎・泌尿器・生殖器系障害	浮腫 排尿障害 血尿 発熱 疼痛 倦怠感 性器出血 帯下	手術療法、安静療法、薬物療法、食事療法 輸液療法、放射線療法、人工臓器、尿検査 腎機能検査、X-P、内視鏡、尿路造影 腎生検、腹部エコー、CT、MRI、シンチグラフィ 前立腺生検、化学療法、細胞診、不妊検査	尿路結石 前立腺肥大症 腎炎 腫瘍（腎・尿管・膀胱・前立腺・子宮・卵巣・乳房） 腎不全 子宮筋腫 卵巣囊腫
骨・関節・筋系障害	運動機能障害 疼痛 知覚障害 循環障害 腫脹	手術療法、安静療法、ギプス牽引療法 装具の装着、徒手筋力テスト、X-P、MRI 関節可動域テスト、脊髓腔関節造影 リハビリテーション	骨折 椎間板ヘルニア 先天性股関節脱臼 脊髓損傷 慢性関節リウマチ 変形性関節症 骨粗鬆症
感覚器系障害	〈眼科〉 視力障害 視野障害 充血・流涙・眼脂 眼痛・羞明 〈耳鼻科〉 難聴・耳鳴・眩暈 鼻閉・鼻出血 嗄声・嗅覚障害	手術療法、安静療法、薬物療法、輸液療法 光凝固療法、視力検査、視野計測、眼底検査 顕微鏡検査 聴力検査、X-P、内視鏡、平衡機能 化学療法、放射線療法	白内障、緑内障 網膜剥離 網膜症 副鼻腔炎 突発性難聴 メニエール病 腫瘍（舌・咽頭・喉頭） 中耳炎、咽・喉頭炎

	<p>〈皮膚科〉 皮膚搔痒症 発疹・落屑 〈口腔〉 疼痛、出血 味覚障害</p>		<p>う歯、歯周病 熱傷 带状疱疹 蕁麻疹</p>
--	--	--	---------------------------------------

老年看護学

1年後期・2年前期

4単位（105時間）

目的

老年期にある対象とその家族・支える人々について総合的に理解し、さまざまな健康レベル・状況下に応じた援助を実践するための知識・技術・態度を養う。

目標

- 1 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化、発達課題を理解できる。
- 2 老年期にある対象の生活史を理解し、信条・信念・価値観を尊重する態度を養う。
- 3 加齢による機能変化・疾病に伴う障害に対する日常生活援助の知識・技術を習得する。
- 4 老年期の生活が健康と深い関わりがあることを理解し、生活に視点をおいた看護の重要性を認識する。
- 5 老年期にある対象にとって家族・または支える人々が深い関わりがあることを理解し、支援の重要性を認識する。
- 6 老年期にある対象が入院・検査・治療を受けている過程に必要な看護の知識と技術を習得する。
- 7 老年特有な疾病と老年期の主な疾病について理解し、看護を行うための基礎的な知識・技術を習得する。
- 8 健康時から健康障害時までの老年看護活動を理解し、保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を知る。

教科目の構成

老年看護学	—	老年看護の対象	1単位（30時間）
	—	老年看護援助論Ⅰ	1単位（30時間）
	—	老年看護援助論Ⅱ	1単位（15時間）
	—	老年看護援助論Ⅲ	1単位（30時間）

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護の対象
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	1年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：急速に進む高齢社会を背景に、高齢者に対するケアのニーズが高まっている。高齢者の特徴を理解し、健康と生活に視点をいた看護を学ぶ。さらに、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の制度と概要について理解し、看護の役割と責任を認識する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年看護の対象を理解する。	2	1 老年期の理解 1) ライフサイクルからの老年期の理解 (1) 老年期の定義 (2) 加齢と老化	講 義	試 験
	5	2 加齢に伴う変化 1) 加齢に伴う変化の特徴 (1) 恒常性 (2) 疾病をめぐる特徴 (3) 個体差 2) 身体的機能の変化 (1) 脳神経 (2) 内分泌 (3) 感覚・知覚 (4) 呼吸 (5) 循環 (6) 消化・吸収 (7) 排泄 (8)体内水分量 (9) 運動・体力 3) 高齢者動作の疑似体験		
	2	4) 精神的機能の変化 (1) 知的機能 (2) 情緒 (3) 性格 5) 社会的機能の変化 (1) 社会的役割 (2) 家族 (3) 経済力		
	2	3 老年期を生きる人々の特徴 1) 老年期の発達と成熟 (1) 老年期の発達課題 (2) 人格と尊厳 (3) 高齢者のセクシュアリティ 2) 高齢者の多様性 (1) 高齢者の生活史 (2) 価値観の多様性 (3) 健康状態の多様性 (4) 生活習慣・様式の多様性		
2 老年者の健康状態を理解し、老年看護の機能と役割が理解で	4	1 高齢者にとっての健康 1) 生活習慣と健康 2) 生きがい 2 老年看護学の基本的考え方 1) 高齢者とQOL		

<p>きる。</p>		<p>(1) 高齢者の尊厳と権利擁護（アドボカシー）</p> <p>(2) ノーマライゼーション</p> <p>(3) 自立支援とエンパワーメント</p> <p>2) 老年看護における倫理的課題</p> <p>(1) 自己決定 (2) 高齢者差別</p> <p>(3) 虐待・身体拘束 (4) 成年後見制度</p> <p>3) 老年看護の基本的姿勢 4) 老年看護の目的</p> <p>5) 老年看護の原則</p>		
<p>3 社会における老年保健の意義や老年の健康上のニーズの変化、保健・医療・福祉について現状と課題について学ぶ。</p>	<p>4</p>	<p>1 社会の中の高齢者</p> <p>1) 老年保健の動向 2) 高齢者の国際的動向</p> <p>3) 社会生活への影響</p> <p>4) 社会文化的影響と権利擁護 5) 生涯学習</p> <p>2 高齢社会における社会保障の動き</p> <p>1) 保健・医療・福祉制度の概要</p> <p>2) 介護保険システム</p> <p>3) 職種の多様化と役割の拡大</p> <p>4) 在宅サービスの構成と取り組み</p>		
<p>4 保健・医療・福祉の場における看護の役割について学ぶ。</p>	<p>4</p>	<p>1 各施設における看護・ケア</p> <p>1) 病院での看護</p> <p>2) 長期療養を主とする病院での看護</p> <p>3) 通所施設でのケア</p> <p>4) 施設でのケア</p> <p>5) 在宅ケア</p> <p>6) 訪問看護</p>		
	<p>3</p>	<p>2 家族に対する支援</p> <p>1) 高齢者を支える家族</p> <p>2) 家族に対するエンパワーメント</p>		

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護援助論Ⅰ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	1年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	—		

設定理由：高齢者の加齢に伴う変化を踏まえ、自立した生活を営めるよう支援するために、個々の健康段階に応じた日常生活援助を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 高齢者の特徴を踏まえた日常生活の援助の方法を学び自立性を尊重した援助の実際が理解できる。	12	1 食生活への援助 1) 加齢による摂取・嚥下機能の変化 2) 食生活のアセスメントとケア 2 口腔内への援助 1) 口腔ケアの意義 2) 顎口腔機能とQOL 3) 口臭の原因のアセスメントとケア 4) 咀嚼・嚥下・発語障害のリハビリテーション 3 排泄への援助 1) 排便の異常のアセスメントとケア 2) 排尿の異常のアセスメントとケア 4 運動・休息・睡眠への援助 1) 運動機能のアセスメントとケア 2) 睡眠リズムのアセスメントとケア 5 清潔・入浴への援助 1) 清潔の意義 2) 入浴、清拭、足浴、陰部洗浄、口腔のケア	講 義	試 験
	4	6 自立した生活のための援助 1) 日常生活動作能力のためのアセスメント（ADL、IADL、FIMなど） 2) 転倒予防のアセスメントとケア		
2 老年期の症状と援助の実際が理解できる。	4	1 心理・精神症状と援助 1) うつ 2) せん妄		
	10	2 身体症状と援助 1) 痛み 2) 痒み 3) 脱水 4) 浮腫 5) 冷え 6) 褥瘡		

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護援助論Ⅱ
単位・時間	1単位 15時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：健康障害を持つ高齢者の特徴を理解し、受診時や入院時、また治療を受けていく上で、どのような影響があるのかを理解し、具体的な援助方法を学ぶ。また、精神障害や寝たきりの状態の老年者に対する援助の方法について、福祉や地域との連携も考慮し学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 健康が障害された高齢者に対して行われる治療時の援助の実際を理解できる。	4	1 手術療法時の援助 1) 術前の看護 2) 患者・家族への説明 3) 術後の看護 4) 退院時の看護 2 薬物療法時の援助 1) 身体の生理的变化 2) 薬物動態の変化 3) 薬効の変化 4) 服薬コンプライアンス	講 義	試 験
2 健康段階に応じた援助を理解できる。	7	1 認知症 1) 認知症とは 2) 認知症の評価 3) 予防的アプローチ 4) 認知症の経過 5) 生活機能の障害からみた認知症状態の捉え方 6) 看護の実際 2 終末期 1) 意思決定への支援 2) 合併症の予防 3) 苦痛の緩和 3 廃用症候群 1) 身体可動性の定義と看護の視点 2) 患者を支える基本的視点 3) 身体可動性障害の回復に対する看護プログラム 4) 寝たきり防止と自立への支援技術		

3 高齢者を対象とした看護過程の展開ができる。	4	1 事例による看護過程の展開		
-------------------------	---	----------------	--	--

テキスト 系統看護学講座 老年看護学 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護援助論Ⅲ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4)		
実務経験	1) — 2) — 3) — 4) —		

設定理由：老年期に特有な疾病を理解し、看護を行うための基礎的な知識・技術を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 脳神経系に障害をもつ患者の看護が理解できる。	12	1 主な症状と看護 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動障害 4) 排泄障害 5) 嚥下障害 6) けいれん 7) 頭蓋内圧亢進症状 8) 髄膜刺激症状 2 疾患をもつ患者の看護 1) 脳内出血 2) 脳梗塞 3) 脳腫瘍 4) パーキンソン病 3 治療、処置別看護 1) 脳血管造影 2) CT 3) 気管切開 4) 薬物療法 5) 髄液検査 6) 神経学的検査 7) 脳波検査 8) 手術療法 9) 放射線療法	講 義	試 験
2 泌尿器系に障害をもつ患者の看護が理解できる。	6	1 主な症状と看護 1) 尿失禁 2) 尿閉 3) 血尿 4) 尿量異常 2 疾患をもつ患者の看護 1) 膀胱炎 2) 前立腺炎 3) 腫瘍（膀胱・前立腺） 3 治療、処置別看護 1) 尿検査 2) 内視鏡検査 3) カテーテル留置 4) 導尿 5) 膀胱洗浄 6) 手術療法	講 義	試 験
3 感覚器系に障害をもつ患者の看護が理解できる。	4	【眼科系】 1 主な症状と看護 1) 視力障害 2) 視野障害 2 治療、処置別看護	講 義	試 験

		1) 光凝固 2) 手術療法 【耳鼻咽喉系】 1 主な症状と看護 1) 難聴 2) 耳鳴 3) 鼻出血 4) 平衡感覚障害 2 治療、処置別看護 1) 薬物療法 2) 手術療法		
4 運動器系に障害をもつ患者の看護が理解できる。	8	1 主な症状と看護 1) 疼痛 2) 形態異常 3) 異常歩行 4) 循環障害 5) 知覚障害 6) 機能障害 7) 関節運動異常 2 疾患をもつ患者の看護 1) 骨折 2) 骨腫瘍 3) 捻挫 4) 慢性関節リウマチ 5) 脱臼 6) 椎間板ヘルニア 3 治療、処置別看護 1) ギプス固定 2) 牽引療法 3) 装具 4) 関節鏡 5) 脊髄造影 6) リハビリテーション 7) 手術療法	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔13〕眼 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学〔10〕運動器 医学書院

老年看護援助論内訳

3 単位 (90 時間)

		科 目 名	時間数	単 位	講 師 名
老年看護援助論 I	1 年 後 期	/	30	1 単位 (30)	法人講師
老年看護援助論 II	2 年 前 期	/	15	1 単位 (15)	専任教員
老年看護援助論 III	2 年 後 期	脳神経系に障害をもつ患者の看護	12	1 単位 (30)	法人講師
		泌尿器系に障害をもつ患者の看護	6		法人講師
		感覚器系に障害をもつ患者の看護	4		法人講師
		運動器系に障害を持つ患者の看護	8		法人講師

老年看護学実習

2年前期・3年全期
4単位（180時間）

目 的

老年期にある対象を総合的に理解し、さまざまな健康レベルに応じた看護を実践するための看護実践能力を養う。

目 標

- 1 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴や発達段階を総合的に理解できる。
- 2 対象の健康問題がわかり、健康レベルに応じた看護が実践できる。

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護学実習Ⅰ
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

目 的

老年期にある対象を理解し、日常生活援助のための看護実践能力を養う。

目 標

- 1 老年期にある対象を理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
- 2 加齢による機能低下や障害に対して、日常生活の援助を実践できる。
 - 1) 患者・入所者の個別性を考慮した、日常生活上の問題がわかる。
 - 2) 患者・入所者の個別性に合わせた日常生活の援助を実践できる。
- 3 老年期の特徴をふまえたコミュニケーションをとることができる。
 - 1) 患者・入所者に応じたコミュニケーションをとることができる。
 - 2) 高齢者の特徴をふまえたコミュニケーションの方法がわかる。
- 4 患者の疾病や入院(入所)生活が、家族・支える人に与える影響を理解できる。
 - 1) 患者・入所者と家族の関係がわかる。
 - 2) 家族・支える人に及ぼす影響がわかる。
 - 3) 家族・支える人の思いや受け止め方がわかる。
- 5 「古い」について考えることができる。
- 6 退院後に必要な支援がわかる。
 - 1) 対象に必要なケアがわかる。
 - 2) 対象に係る職種と役割がわかる。
- 7 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 老年期にある患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 特別養護老人ホームでの実習を4日行う。
- 4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。
- 5 学生および教員でグループワークを1日30分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 老年看護学実習Ⅰの評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護学実習Ⅱ
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	3年
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院9年		

目的

老年期にある対象を理解し、健康・生活状態を維持するための看護実践能力を養う。

目標

- 1 老年期にある患者を理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
- 2 健康障害を理解し、健康上の問題を解決するための援助を実践できる。
 - 1) 病態生理・検査・治療がわかる。
 - 2) 日常生活の自立度がわかる。
 - 3) 加齢による障害と健康障害が関連して起こしている問題がわかる。
 - 4) 健康状態を維持する方法がわかる。
 - 5) 健康状態を維持するための援助を実践できる。
- 3 老年期の特徴をふまえたコミュニケーションをとることができる。
 - 1) 患者に応じたコミュニケーションをとることができる。
 - 2) 高齢者の特徴をふまえたコミュニケーションの方法がわかる。
- 4 患者の疾病や入院生活が、家族・支える人に与える影響と必要な支援を理解できる。
 - 1) 患者と家族の関係がわかる。
 - 2) 家族・支える人に及ぼす影響がわかる。
 - 3) 家族・支える人の思いや受け止め方がわかる。
 - 4) 家族・支える人々に必要な支援がわかる。
- 5 人生の集大成にある高齢者の思いを考えることができる。
- 6 退院後に必要な支援がわかる。
 - 1) 対象に必要なケアがわかる。
 - 2) 対象に関係する職種と役割がわかる。
 - 3) 対象に必要な社会資源がわかる。
- 7 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。

- 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
- 5) 守秘義務を遂行することができる。
- 6) 自己の健康管理ができる。
- 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 老年期にある患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。
- 4 学生および教員でグループワークを1日30分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 老年看護学実習Ⅱの評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

小児看護学

2年全期

4単位（105時間）

目的

小児各期の特徴を理解し、小児の成長・発達に応じた養護と健康障害を持つ小児とその家族に対する看護を学ぶ。

目標

- 1 小児看護の理念・変遷・意義と役割について学ぶ。
- 2 小児看護を実践するために必要な、健康な子供の成長・発達を理解し、小児各期に適した生活を送るための保育・養護と家族への支援方法を学ぶ。
- 3 小児に特徴的な健康障害の概要について理解し、健康障害を持つ小児と家族への看護を学ぶ。
- 4 成長・発達段階および健康レベルに応じて小児とその家族を理解し、個別性を尊重した看護を展開できる基礎能力を習得する。

教科目の構成

小児看護学	小児看護の対象	1単位（30時間）
	小児の健康障害	1単位（15時間）
	小児看護援助論Ⅰ	1単位（30時間）
	小児看護援助論Ⅱ	1単位（30時間）

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	小児看護の対象
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：少子高齢化に伴い、我が国の政治・経済・文化、医療にはさまざまな変化が生じ、子供を取り巻く環境も急激に変化している。子供がおかれている社会や周囲の状況を理解することは、現代の小児看護を考える第一歩として大変重要なことである。そこで、小児看護の理念・変遷・意義と役割について学ぶ。

さらに小児看護を実践するために必要な、健康な子供の成長・発達を理解し、小児各期に適した生活を送るための保育・養護と家族への支援方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 小児の特徴を理解できる。	4	1 小児とは 2 小児の特徴 1) 全体的特徴 2) 小児各期の発達課題	講 義	試 験
2 小児の成長・発達を理解できる。	12	1 成長・発達の原則 2 成長・発達に影響する因子 1) 遺伝的因子 2) 環境的因子 3 小児各期の成長・発達 1) 形態的成長・発達 2) 機能的発達 3) 精神・運動機能発達 4) 心理・社会的発達 4 成長・発達評価の方法		
3 小児看護の理念・目的を理解できる。	4	1 小児看護の理念 2 小児医療・小児看護の変遷と動向 3 小児看護の課題と展望 1) アドボカシー		
4 小児を取り巻く社会的環境とその動向・健康上の課題を理解できる。	4	1 小児と環境 1) 小児と栄養 2) 小児と家族 3) 小児と社会 4) 小児の安全		
5 小児保健統計を学び小児を保	6	1 小児と保健 1) 統計から見た小児の健康		

<p>護する法律や保健対策を理解する。</p>		<p>(1) 出生率 (2) 乳児死亡 (3) 小児死亡 (4) 小児の疾病・異常被患率 2) 小児を保護する法律と保健対策 (1) 小児看護における倫理 (2) 児童憲章 (3) 子どもの権利条約 (4) 児童福祉法 (5) 母子保健法 (6) 予防接種法 (7) 学校保健安全法 (8) 児童虐待の防止等に関する法律 3) 社会資源 (1) 養育医療 (2) 育成医療 (3) 小児慢性疾患の医療費助成 (4) 乳幼児医療費の助成 (5) 里親 (6) 子育て支援</p>		
-------------------------	--	--	--	--

テキスト 系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	小児の健康障害
単位・時間	1単位 15時間	対象学年	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	—		

小児の健康障害 1単位（15時間）

設定理由：健康が障害された小児の疾病について理解し、看護を行うための基礎的な知識、技術を学び、看護に活かす能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 健康が障害された小児の疾病について理解できる。	4	1 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1) ダウン症候群 2 新生児・低出生体重児の疾患 1) 新生児一過性多呼吸 2) 新生児メレナ 3) 黄疸 4) 呼吸窮迫症候群 5) 未熟児網膜症 3 内分泌疾患 1) 成長障害 4 免疫・アレルギー性疾患、膠原病 1) 気管支喘息 5 感染症 1) 麻疹 2) 風疹 3) 流行性耳下腺炎 4) 水痘 5) 髄膜炎 6) 百日咳 7) 溶血性レンサ球菌感染症	講 義	試 験
	4	6 呼吸器疾患 1) クループ症候群 2) 急性気管支炎 7 循環器疾患 1) ファロー四徴症 2) 乳幼児突然死症候群 3) 川崎病 8 消化器疾患 1) 先天性奇形、口唇、口蓋裂 2) 腸重積		
	4	3) 急性胃腸炎 9 血液・造血器疾患 1) 紫斑病 10 悪性新生物 1) 白血病 11 腎・泌尿器および生殖器疾患		

		1) ネフローゼ症候群 2) 急性糸球体腎炎		
	3	12 神経疾患 1) てんかん 2) 熱性けいれん 3) 脳性麻痺 13 精神疾患 1) 自閉症		

テキスト 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	小児看護援助論Ⅰ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) — 2) —		

設定理由：疾病や障害のある子どもは、症状や治療による苦痛や恐れ、やりたいことができない悲しみなどストレスの原因となる体験も多く、その影響は子どもの発達段階によっても異なるしたがって、看護師は、子どもの疾病や障害の特徴のみならず、成長・発達段階、家族の反応など、各側面から子どもの状況を総合的に判断し、看護の方向性を見出していかなければならない。そのため、健康障害や入院などの環境の変化が小児とその家族に及ぼす影響を理解し、成長発達に応じた日常生活の援助法と、健康を害したときにどのような援助が必要か基本を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 小児各期の日常生活の援助方法を理解する。	12	1 日常生活の援助の基本 1) 養護と基本的な生活習慣自立への援助 2) 健康な小児の観察の方法 3) 小児各期の家族への援助 2 新生児のいる家族への看護 1) 安全な環境の提供 2) 感染予防 3) 栄養 3 乳児の日常生活援助 1) 環境 2) 食事 3) 排泄 4) 睡眠 5) 清潔 6) 衣服 7) 安全 8) 遊び 9) 家族への看護 4 幼児の日常生活援助 1) 環境 2) 食事 3) 排泄 4) 睡眠 5) 清潔 6) 衣服 7) 安全（安全教育） 8) 遊び 9) 家族への看護 5 学童の日常生活援助 1) 環境 2) 食事 3) 排泄 4) 睡眠 5) 清潔 6) 衣服 7) 安全（安全教育） 8) 遊び 9) 健康教育 10) 家族への看護 6 青年前期（思春期）にある小児の日常生活援助 1) 生活指導と健康教育 2) 性教育 3) 家族への看護	講 義	試 験

2 小児を援助するための基本的技術を習得できる。	4	1 日常生活の援助技術 1) 乳児の抱き方 2) おむつの当て方 3) 衣服の着脱のしかた 4) 小児との接し方 (コミュニケーション)	演 習
3 疾病や入院が小児と家族に与える影響とその看護について理解する。	4	1 健康を障害された小児と家族 1) 小児の健康障害の特徴 2) 疾病・入院が小児に与える影響と反応 3) 疾病・入院が小児の家族に与える影響と看護 4) ストレスを緩和するための看護	講 義
4 小児の健康段階に応じた看護の方法を理解できる。	4	1 小児における疾病の経過と看護 1) 慢性期、急性期にある小児と家族の看護 2) 周手術期の小児と家族の看護 3) 終末期の小児と家族の看護	講 義
5 健康が障害された小児の基本的看護技術を習得できる。	6	1 症状を示す小児の看護 1) 一般状態、痛み、呼吸・循環系の症状 2) 発熱、消化器症状、水分・電解質異常 3) 検査・処置を受ける小児の看護	

テキスト 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	小児看護援助論Ⅱ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) — 2) — 3) —		

設定理由：現代の子どもと家族の特徴及びその環境をより広い視点からとらえ、入院中の子どもだけでなく、あらゆる場面ですべての健康レベルの子どもを対象に考えることが小児看護である。近年、心や身体に問題をかかえて家庭や学校で生活する子どもの看護がますます重要になっている。健康が障害された小児の看護を理解し、対象の状態に応じた援助方法を学び、看護過程の展開ができる能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 健康が障害された小児の看護の方法を理解できる。	6	1 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の看護 1) ダウン症候群の小児の看護 2 新生児・低出生体重児の疾患、成熟異常の看護 1) 高ビリルビン血症の小児の看護 2) 新生児仮死で出生した小児への看護 3) 超低出生体重児の看護	講 義	試 験
	4	3 代謝性疾患の看護 1) I型糖尿病の小児の看護 4 内分泌疾患の看護 1) 成長ホルモン分泌不全の小児の看護 2) 甲状腺機能亢進症の小児の看護		
	6	5 免疫・アレルギー性疾患、膠原病の看護 1) 気管支喘息の小児の看護 2) 若年性関節リウマチの小児の看護 6 感染症の看護 1) 麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の小児の看護 2) 髄膜炎の小児の看護 3) ブドウ球菌皮膚熱傷様症候群の小児の看護 4) 溶血性レンサ球菌感染症の小児の看護		
	6	7 呼吸器疾患の看護 1) 肺炎の小児の看護		

		8 循環器疾患の看護 1) ファロー四徴症の小児の看護 2) 川崎病の小児の看護 9 消化器疾患の看護 1) 幽門狭窄症の小児の看護 2) 腸重積症の小児の看護 3) 急性胃腸炎の小児の看護		
	6	10 血液・造血器疾患の看護 1) 血友病の小児の看護 11 悪性新生物の看護 1) 白血病の小児の看護 12 腎・泌尿器および生殖器疾患の看護 1) ネフローゼ症候群の看護 2) 急性糸球体腎炎の看護 13 神経疾患の看護 1) 痙攣のある小児の看護 2) 脳性麻痺の小児の看護		
2 看護過程の展開	2	1 事例による看護過程の展開		

テキスト 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	小児看護学実習
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	3年
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院12年		

目的

小児期にある対象を理解し、健康回復のための看護実践能力を養う。

目標

- 1 小児にある対象を理解できる。
 - 1) 形態的成長・発達がわかる。
 - 2) 機能的発達がわかる。
 - 3) 身体的な成長・発達の評価ができる。
- 2 発達段階に応じた日常生活の援助を実践できる
 - 1) 子どもとその家族とコミュニケーションがとれる。
 - 2) 発達段階に応じた子どもの日常生活がわかる。
 - 3) 子どもの日常生活への援助の必要性がわかる。
 - 4) 日常生活援助の方法を選択し、実践できる。
- 3 疾病、入院が子どもと家族に与える影響を理解し援助を実践できる。
 - 1) 病態生理・検査・治療がわかる。
 - 2) 疾病や入院が成長・発達に及ぼす影響がわかる。
 - 3) 疾病や入院が子どもに及ぼす影響を踏まえて必要な援助を実践できる。
 - 4) 子どもの疾病や入院が、家族に及ぼす影響がわかる。
- 4 子どもの安全を守るための援助を実践できる。
 - 1) 感染予防の必要性、方法がわかり、実践できる。
 - 2) 事故防止の必要性、方法がわかり、実践できる。
- 5 「子ども」について考えることができる。
- 6 退院後に必要な支援がわかる。
 - 1) 対象に必要なケアがわかる。
 - 2) 対象に関係する職種と役割がわかる。
 - 3) 対象に必要な社会資源がわかる。
- 7 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。

- 6) 自己の健康管理ができる。
- 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 小児期にある患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 保育所での実習を2日行う。
- 4 小児外来での実習を1日行う。
- 5 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標・方法を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 小児看護学実習の評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

母性看護学

2年全期
4単位（90時間）

目的

女性の一生を通して、母性の役割を理解し、健全なライフサイクルを送るための看護について学ぶ。

目標

- 1 母性のライフサイクルと各期の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。
- 2 生命誕生と生命倫理について考える。
- 3 妊娠・分娩・産褥各期の正常経過と異常時の看護、新生児期の看護を学ぶ。
- 4 勤労婦人の現状と課題について制度と関連させ、母性保護の意義について考える。
- 5 思春期・成熟期・更年期の健康と障害時の看護や保健指導について学ぶ。
- 6 性の概念を認識し、母性行動と性行動の差異を理解する。

教科目の構成

母性看護学 4単位（90時間）	—	母性看護の対象	1単位（30時間）
		周産期の診断と治療	1単位（15時間）
		周産期の看護	2単位（45時間）

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	母性看護の対象
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) — 2) —		

ねらい：母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解し、母性各期における特性と母性保健活動の中で看護師の果たす役割を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 母性とは何かを幅広く考え、母性をめぐるさまざまな定義を理解し、母性を身体的、心理・社会的特性を理解する。	6	1 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス/ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理 8) 母性看護における安全・事故防止	講 義	試 験
2 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状と母性に及ぼす影響について理解する。	6	1 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史の変遷と現状 2) 母性看護の対象を取り巻く環境		
3 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化と、母性の発達・成熟・継承について理解する。	6	1 母性看護の対象の理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 3) 母性の発達・成熟・継承		
4 思春期・成熟期・更年期・老年期それぞれの身体的特徴と心理・社会的特徴を理解する。	6	1 女性のライフステージ各期における看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護 4) 更年期の健康と看護		

		5) 老年期の健康と看護		
5 女性の生涯を通じた健康の保持・増進の観点からリプロダクティブヘルスケアを理解する。	6	1 リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護 4) 喫煙女性の健康と看護 5) 性暴力を受けた女性に対する看護		

テキスト 系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	周産期の診断と治療
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) — 2) — 3) —		

ねらい：妊・産・褥婦・新生児の生理的変化の特徴と各期におこりやすい異常の原因、診断、治療について理解し、周産期の経過に沿った看護に生かす。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 出生前診断・着床前診断の方法および母体・胎児のリスク、倫理的な問題について学ぶ。	1	1 出生前診断 2 出生前診断の実際 3 着床前診断 4 胎児治療と遺伝子治療	講 義	試 験
2 妊娠期による母体の生理的変化と胎児の発育を理解する。	2	1 妊娠期の身体的特性 1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育とその生理 3) 母体の生理的変化 2 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠経過の診断 2) 胎児の発育と健康状態の診断 3) 妊婦健康診査		
3 分娩の経過に伴う身体的変化と胎児の状態について理解する。	2	1 分娩の要素 1) 分娩とは 2) 分娩の3要素 3) 胎児と子宮および骨盤との関係 4) 分娩の機序 2 分娩の経過 1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 2) 産痛 3) 胎児に及ぼす影響		
4 出生を境にした胎児から新生児への生理的変化および生存環境の変化への適応について理解	2	1 新生児の生理 1) 新生児とは 2) 新生児の形態・機能 2 新生児のアセスメント 1) 新生児の診断		

する。			
5 産褥期における褥婦の生理的な身体の変化について理解する。	2	1 産褥経過 1) 産褥期の身体的変化 2 褥婦のアセスメント 1) 産褥経過の診断	
6 妊娠・分娩・産褥経過中に見られる異常、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児におこる問題、医学的対応について理解する。	2	1 妊娠の異常 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 子宮外妊娠	講 義
	2	2 分娩の異常 1) 3要素の異常 2) 分娩の経過の異常 3) 胎児の異常 3 新生児の異常 1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 2) 低出生体重児	
	2	4 産褥の異常 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 精神障害	

テキスト 系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	周産期の看護
単位・時間	2単位 45時間	対象学年	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4)		
実務経験	1) — 2) — 3) — 4) —		

- ねらい：1 母性のライフサイクルの中で妊・産・褥婦・新生児の生理的变化、各期に起こりやすい異常について理解し、対象の状態に応じた援助方法を学ぶ。
- 2 周産期の中で新しい生活を構築していく時期であることを理解し、ウェルネス理論に基づいた関わりを学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 不妊治療を受ける女性の心理・社会的特徴を知り、不妊治療の看護を理解する。	1	1 不妊治療と看護 1) 不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 2) 不妊夫婦の看護 3) 不妊治療によって妊娠した女性・家族の看護	講 義	試 験
2 妊娠の経過に応じた心理・社会的変化を理解し、妊婦および胎児のアセスメント、妊婦の保健指導、家族を含めた看護について学ぶ。	8	1 妊娠期心理・社会的特性 1) 妊婦の心理 2) 妊婦と家族および社会 2 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 2) 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3 妊婦と家族の看護 1) 妊婦の保健相談 2) 妊婦の保健相談の実際 3) 親になるための準備教育		
3 妊娠期における保健指導の実際を学ぶ。	2	1 妊娠期における看護過程 2 妊娠の保健指導の実際 1) 母親学級		
4 分娩の経過に伴う心理・社会的変化を理解し、アセスメントおよび分娩時に必要な援助に	6	1 産婦の心理・社会的変化 1) 分娩徴候開始から入院まで 2) 入院時の産婦と家族の心理 3) 分娩進行に伴う心理・社会的変化 4) 分娩第1期の終わりころの心理 5) 努責開始から児誕生までの心理		

について学ぶ。		6) 分娩第3・4期の産婦の心理・行動 2 産婦・胎児、家族のアセスメント 1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2) 産婦と家族の心理・社会的のアセスメント 3) 産婦・家族における看護上の問題の明確化 3 産婦と家族の看護 1) 看護目標と産婦のニーズ 2) 安全・安楽な分娩への看護 3) 出産体験が肯定的になるための看護 4 分娩期の看護の実際 1) 分娩第1期の活動期 2) 分娩第1期活動期の終盤の看護 3) 分娩第2期の看護 4) 分娩第3・4期の看護		
5 分娩期の看護の実際を学ぶ。	2	1 分娩期における看護過程 2 分娩看護の実際		
6 新生児の健康な発達を促す援助を理解する。	4	1 新生児の健康状態のアセスメント 2 新生児の看護 1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院時までの看護		
7 新生児の健康状態を理解する。	2	1 新生児の看護の実際 1) 新生児のバイタルサイン 2) 新生児の身体計測		
8 褥婦の健康状態のアセスメントおよび産褥・家族の心理的・社会的変化を理解し、状態に応じた看護を学ぶ。	8	1 産褥期の心理・社会的変化 1) 褥婦の心理的变化 2) 家族の心理的变化 3) ソーシャルサポート（社会的支援） 2 褥婦の健康状態のアセスメント 3 褥婦と家族の看護 1) 身体機能回復および進行性変化への看護 2) 児との関係確立への看護 3) 育児技術に関わる援助 4) 家族関係再構築への看護 4 施設退院後の看護 1) 育児不安と育児支援 2) 職場復帰		
9 褥婦への保健指導の実際を学ぶ。	2	1 産褥期における看護過程 2 褥婦への保健指導の実際 1) 沐浴 2) 乳房ケア	演習	
10 妊婦・産婦・	10	1 ハイリスク妊婦の看護	講義	試験

<p>褥婦および胎児・新生児における問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 高年妊婦の看護 2) 若年妊婦の看護 3) 肥満・過剰体重増加妊婦の看護 4) 勤労妊婦への援助 5) 合併症を有する妊婦の看護 6) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 7) 切迫流・早産の妊婦の看護 8) 多胎妊婦の看護 9) その他問題を持つ妊婦の看護 2 異常のある産婦の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 破水が生じた産婦の看護 2) 分娩遷延のリスクのある産婦の看護 3) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 3 急速遂娩を受ける産婦の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 吸引分娩・鉗子分娩を受ける産婦の看護 2) 緊急帝王切開を受ける産婦の看護 4 分娩時異常出血のある産婦の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 弛緩出血を生じた産婦の看護 2) 頸管裂傷を生じた産婦の看護 3) 膣・会陰血腫を生じた産婦の看護 4) 会陰裂傷を生じた産婦、会陰切開を行った産婦の看護 5 光線療法を受ける新生児および家族の看護 6 異常のある褥婦の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症をもっている褥婦の看護 2) 乳房トラブル 3) 母子分離時の褥婦の看護 4) 児を亡くした褥婦・家族の看護 7 精神障害合併妊婦と家族の看護 	
---	--	--

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	母性看護学実習
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	3年
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 11年		

目的

周産期および新生児期にある対象を理解し、各期に応じた看護を提供するための看護実践能力を養う。

目標

- 1 妊娠期にある対象の妊娠継続のための看護が理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
 - 5) 妊娠による日常生活の変化がわかる。
 - 6) 妊娠各期に生じやすい問題がわかる。
 - 7) 妊娠各期に応じた健康診査と保健指導がわかる。
- 2 分娩期にある対象が安全に出産するための看護が理解できる。
 - 1) 分娩期の正常な経過がわかる。
 - 2) 分娩各期の看護がわかる。
- 3 産褥期にある対象の経過に応じた看護が理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
 - 5) 進行性変化・退行性変化を促す援助がわかる。
 - 6) 育児技術獲得への援助がわかる。
- 4 新生児の特徴が理解でき、必要な看護ができる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 新生児に必要な日常生活の援助ができる。
 - 3) 新生児の安全を守るための援助ができる。
- 5 家族・支える人への援助の必要性が理解できる。
 - 1) 家族・支える人に及ぼす影響がわかる。
 - 2) 家族・支える人の思いや受け止め方がわかる。
 - 3) 家族・支える人への必要な支援がわかる。
- 6 生命の誕生について考えることができる。

- 7 退院後に必要な支援がわかる。
 - 1) 対象に必要なケアがわかる。
 - 2) 対象に関する職種と役割がわかる。
 - 3) 対象に必要な社会資源がわかる。
- 8 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 周産期にある対象を受け持ち、看護を実践する。
- 3 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。
- 4 学生および教員でグループワークを1日30分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 母性看護学実習の評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

精神看護学

2年後期

4単位（105時間）

目的

精神看護の対象を理解し、こころの健康を維持するための援助、また、こころのバランスを崩している人々や精神障害および家族に対する援助について学ぶ。

目標

- 1 精神の構造と機能・成長発達・健康の概念を理解できる。
- 2 精神の健康の維持・増進に向けた精神保健活動を理解できる。
- 3 こころを病む対象とその家族の理解と援助のための知識と技術を学ぶ。
- 4 患者－看護師関係から自己洞察の必要性と方法を学ぶ。
- 5 精神障害者の置かれてきた歴史と社会的な背景を理解し、患者を一人の人間として尊重することの重要性を理解する。
- 6 精神保健医療と地域社会との結びつきの重要性と保健医療福祉との関連について理解する。

教科目の構成

精神看護学	—	精神看護学概論	1単位（30時間）
	—	精神疾患の理解	1単位（15時間）
	—	精神看護援助論Ⅰ	1単位（30時間）
	—	精神看護援助論Ⅱ	1単位（30時間）

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	精神看護学概論
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) — 2) —		

設定理由：こころの健康とは何かを学習し、ライフサイクルにおけるこころの発達や社会生活の中で生じる健康問題について幅広く学ぶ。また、精神の健康の維持・増進に向けた精神保健福祉活動を理解する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 こころの健康について理解できる。	4	1 心の健康 1) 精神の健康とその考え方 2) こころの健康の維持	講 義	試 験
2 こころの発達と健康を理解する。	6	1 こころの発達理論 2 成長各期の発達 3 人間関係とこころのはたらき 1) 人間関係にはぐくまれる個人のこころ 2) 人間関係の中での心の問題 3) こころの問題への対応 4) 「からだ」と「こころ」および人間関係		
3 環境とこころのはたらきを理解する。	6	1 暮らしの場とこころの健康 2 教育の場とこころの健康 3 職場とこころの健康 4 地域社会とこころの健康		
4 危機状況とこころのはたらきについて理解できる。	4	1 危機状況の基本的理解 1) トラウマとトラウマ反応 PTSD 2) 災害時の危機状況 3) 性暴力時の危機状況		
5 地域精神保健活動の展開を理解する。	6	1 精神保健の概念 2 地域精神保健福祉活動 1) 行政組織の周辺 家庭・学校・職場 2) 個々の課題への取り組み アルコール関連・覚せい剤関連 思春期 青年期の問題への取り組み	講 義	試 験
6 精神保健福祉制度を理解する。	4	1 精神保健福祉の変遷 2 精神福祉法と医療行政		

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	精神疾患の理解
単位・時間	1単位 15時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	—		

設定理由：看護を行う上での基礎知識となる精神障害を理解するために、おもな精神疾患と症状・治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 精神障害患者の抱える症状の理解をする。	2	1 精神症状	講 義	試 験
2 主な精神疾患の特徴・検査・治療を理解できる。	13	2 精神障害の診断 3 主な精神障害の診療 1) 主な治療法 薬物療法・精神療法 社会復帰療法・電気ショック療法 2) 主な疾患 統合失調症・躁うつ病 児童思春期の主な精神障害 神経症と心因性精神病・人格障害 アルコール依存		

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	精神看護援助論Ⅰ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	—		

設定理由：精神を障害された人の看護では人間対人間の関係を基盤とする。人と人とのかかわりが援助的になるためにはどのような条件が必要か具体的に学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 精神看護学の考え方がわかり看護師の役割を理解する。	2	1 精神看護学とは 1) 精神看護学における看護師の役割 2) 精神障害者の現状と課題	講 義	試 験
2 精神看護に必要な理論、技術を理解する。	20	1 接触の技術 2 患者－看護師関係の理解 3 観察と記録 4 再構成と自己洞察 5 病室環境調整 6 入院生活上の問題とケアの視点 7 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論		
3 患者家族の理解とその援助が考えられる。	2	1 患者家族の心理 2 家族の負担 3 家族が危機を乗り越えるための援助		
4 看護に必要な地域精神保健がわかる。	6	1 精神科リハビリテーションと地域精神保健 1) デイケア活動 2) 家族会（自助グループ） 2 地域におけるリハビリテーション・サービス 1) 地域リハビリテーション・サービスのネットワーク 2) 障害者自立支援法 3 その他の社会資源 福祉事務所・医療費の援助制度 救護施設と更生施設		

テキスト 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	精神看護援助論Ⅱ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	—		

設定理由：精神障害のある患者のアセスメントから看護介入のプロセスを具体的に学ぶ。

また、精神看護に必要な精神保健活動を理解し社会資源の活用について学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 おもな症状への看護を理解する。	6	1 精神症状と看護 1) 不安 2) 心気状態 3) 脅迫症状 4) 抑うつ状態 5) 拒絶状態 6) 精神運動興奮 7) 自発性減退（自閉症状） 8) 昏迷状態	講 義	試 験
2 診察・検査及び治療に伴う看護が理解できる。	8	1 診察時の看護 2 検査時の看護 3 薬物療法に伴う看護 4 けいれん療法を受ける患者の看護 5 精神療法を受ける患者の看護 6 社会療法を受ける患者の看護 1) 社会療法 2) 作業療法 3) レクリエーション療法 4) 生活指導と指導上の注意 5) その他の方法・・・生活技能訓練		
3 精神障害患者の看護がわかる。	6	7 精神障害者の看護 1) 統合失調症 2) 躁うつ病		
4 精神科リハビリテーション看護が理解できる。	4	1 地域リハビリテーションの過程における看護の役割 1) 訪問看護活動と看護の役割 2) デイケア活動と看護の役割 3) グループホームと看護の役割 4) 家族会・自助グループと看護の役割		

5 看護過程の展開	6	1 統合失調症患者の事例展開 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による展開		
-----------	---	--	--	--

テキスト 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院

専門分野Ⅱ

分野科目名	専門分野Ⅱ	科目名	精神看護学実習
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	3年
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院16年		

目的

精神障がいのある対象を理解し、生活の維持・向上のための看護実践能力を養う。

目標

- 1 精神障がいのある患者を理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
- 2 患者のセルフケア能力の維持・向上にむけた援助を実践できる。
 - 1) 病態生理、検査、治療がわかる。
 - 2) 症状や治療が生活に及ぼす影響がわかる。
 - 3) 生活の維持・向上のための援助を実践できる。
- 3 治療的コミュニケーション技術を理解できる。
 - 1) 治療的コミュニケーションの必要性がわかる。
 - 2) 治療的コミュニケーションの方法がわかる。
- 4 患者の家族・支える人への援助の必要性を理解できる。
 - 1) 家族・支える人に及ぼす影響がわかる。
 - 2) 家族・支える人の思いや受け止め方がわかる。
 - 3) 家族・支える人が患者の日常生活を支えるために必要な支援がわかる。
- 5 患者とのかかわりを通して自己洞察できる。
 - 1) 自己の言動や感情、思考の傾向に気づくことができる。
- 6 ノーマライゼーションについて考えることができる。
- 7 退院後に必要な支援がわかる。
 - 1) 対象に必要なケアがわかる。
 - 2) 対象に係る職種と役割がわかる。
 - 3) 対象に必要な社会資源がわかる。
- 8 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。

- 5) 守秘義務を遂行することができる。
- 6) 自己の健康管理ができる。
- 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 精神障がいのある患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 共同作業所での実習を1日行う。
- 4 デイケアでの実習を半日行う。
- 5 学生、臨床指導者、教員、でカンファレンスを1日30分行う。
- 6 学生および教員でグループワークを1日30分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 精神看護学実習の評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

統合分野

在宅看護論

2年全期
4単位（90時間）

目的

地域で生活する健康な人々や、疾病や障害を持つ人々とその家族を理解し、対象の主体性や自己決定を尊重しながら、日常生活を営めるように援助するための基礎を学ぶ。

目標

- 1 在宅看護の概念と変遷を理解できる。
- 2 在宅看護の活動の場と手段を理解できる。
- 3 個人・集団の健康の意味が理解できる。
- 4 疾病や障害を持ちながら療養する人々と家族を理解できる。
- 5 対象のセルフケア能力を高めるための支援を理解できる。
- 6 地域の社会資源の活用や保健・医療・福祉の連携が理解できる。

教科目の構成

在宅看護論	在宅看護の対象	2単位（30時間）
	在宅看護援助論Ⅰ	1単位（30時間）
	在宅看護援助論Ⅱ	1単位（30時間）

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	在宅看護の対象
単位・時間	2単位 30時間	対象学年	2年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

在宅看護の対象 2単位（30時間）

・設定期由：在宅看護の概念と変遷を理解し、現代に合った在宅看護を考える。

在宅看護の対象を理解し、健康のレベルに応じた看護の役割を学ぶ。

また、保健・医療・福祉の連携について学び、看護の可能性を考える。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 在宅看護の概念と変遷を理解する。	15	1 在宅看護の概念 2 在宅看護の位置づけ 3 在宅看護の歴史 4 プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション 5 現代社会と在宅看護 6 在宅看護の展望と課題	講 義	試 験
2 在宅看護の対象を理解する。	7	1 家族の機能 2 現代の家族 3 家族看護の視点 4 在宅療養者と家族 5 在宅看護における倫理		
3 看護活動と看護を提供する場を理解する。	8	1 公衆衛生看護、学校看護、産業看護、在宅看護 2 外来看護 3 訪問看護 4 保健・医療・福祉の連携 5 国際生活機能分類（ICF） 6 関係職種との連携 7 在宅看護に関連する法律		

テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	在宅看護援助論 I
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	—		

設定理由：対象の主体性や自己決定を尊重することの大切さを理解し、対象の健康状態と生活状況を考慮した援助の実際を学ぶ。

在宅における看護が実践できるための看護過程の展開について学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 対象者の生活と価値観を理解する。	6	1 日常生活の観察と理解 2 価値観の尊重 3 コミュニケーション 4 相談面接援助	講 義	試 験
2 日常生活のアセスメントを理解する。	6	1 住居 2 食生活 3 排泄 4 清潔 5 活動と睡眠		
3 セルフケア能力を高める支援を理解する。	8	1 個人指導 2 集団指導 3 介護用品の活用		
4 看護過程の展開ができる。	10	1 在宅における看護過程 2 事例による看護過程の展開		

テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	在宅看護援助論Ⅱ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5)		
実務経験	1) — 2) — 3) — 4) — 5) —		

設定理由：療養者が在宅で生活する意味を考え、日常生活を送れるような看護の基本的態度・知識・技術を学ぶ。また、家族も看護の対象として支援することを理解し、家族看護の実際を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 日常生活の援助ができる。	10	1 生活リズムと日課 2 バイタルサインと全身状態の観察 3 療養環境の調整 4 食事への援助 5 排泄への援助 6 清潔・衣生活への援助 7 移動動作への援助 8 睡眠への援助	講 義	試 験
2 医療処置に関連した援助ができる。	20	1 在宅酸素療法 2 在宅人工呼吸療法 3 CAPD療法 4 ストーマケア 5 褥瘡ケア 6 経管栄養 7 在宅中心静脈栄養 8 寝たきり療養者の看護 9 難病療養者の看護 10 認知症療養者の看護 11 感染症療養者の看護 12 リハビリテーション 13 服薬管理 14 緊急時のケア 15 終末期の看護・緩和ケア		

統合分野

在宅看護論実習

2年後期・3年前期

2単位（90時間）

目 的

地域で生活する看護の対象を理解し、発達段階、健康レベルに応じた看護を実践するための看護実践能力を養う。

目 標

- 1 地域で生活する看護を必要とする対象が理解できる。
- 2 対象の健康問題がわかり、健康レベルに応じた看護が実践できる。

分野科目名	統合分野	科目名	在宅看護論実習 I
単位・時間	1 単位 45 時間	対象学年	2 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1) 2)		
実務経験	1) — 2) —		

統合分野

目 的

地域で生活する人々の健康の保持、増進、疾病予防のための知識を養う。

目 標

- 1 地域で生活する看護を必要とする対象が理解できる。
 - 1) 対象者が生活していく上で必要としている支援がわかる。
 - 2) 利用者の思いがわかる。
- 2 対象の健康の保持増進と疾病予防活動が理解できる。
 - 1) 活動内容がわかる。
 - 2) 問題状況に対するかかわり方がわかる。
- 3 関連機関の機能・役割がわかる。
 - 1) 対象にかかわる機関の機能・役割がわかる。
 - 2) 法的根拠や目的がわかる。
- 4 「健康」について考えることができる。
- 5 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 保健福祉事務所での実習を 1 日行う。
- 3 市町村保健センターでの実習を 2 日行う。
- 4 健康診断が行われている場での実習を 1 日行う。
- 5 病院外来での実習を 1 日行う。
- 6 地域と医療の連携にかかわる職種からのオリエンテーションを受ける。
- 7 実習のまとめを行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

在宅看護論実習Ⅰの評価表を用いる。

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	在宅看護論実習Ⅱ
単位・時間	1単位 45時間	対象学年	3年（前期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1) 2)		
実務経験	1)看護師として附属病院 11年 2)看護師として附属病院 16年		

目的

地域で生活する看護を必要とする人々に対して、対象に応じた看護を提供するための看護実践能力を養う。

目標

- 1 地域で生活する看護を必要とする対象が理解できる。
 - 1) 利用者の健康状態（身体的側面・精神的側面・社会的側面・スピリチュアル的側面）がわかる。
 - 2) 利用者の生活状況がわかる。
 - 3) 家族や介護者の生活状況がわかる。
- 2 利用者が安全で安心した療養生活を継続するために必要な援助について理解できる。
 - 1) 利用者の自立や QOL を維持向上するための援助がわかる。
 - 2) 家族の介護力を引き出し維持できるような援助がわかる。
 - 3) 生活の場で行われている看護の工夫点がわかる。
 - 4) 在宅ケアにおける看護職の役割と課題がわかる。
- 3 関連機関の機能・役割がわかる。
 - 1) 対象にかかわる機関の機能・役割がわかる。
 - 2) 法的根拠や目的がわかる。
- 4 「その人らしく生活する」ことについて考えることができる。
- 5 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 訪問看護ステーションでの実習を4日行う。

- 3 訪問看護ステーションでの実習では在宅で生活する医療を必要とする人を受け持ち、看護を実践する。
- 4 地域包括支援センターでの実習を2日行う。
- 5 実習のまとめを行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

在宅看護論実習Ⅱの評価表を用いる。

看護の統合と実践

3年全期

4単位（105時間）

目的

既習の知識・技術を統合し、よりよい看護を実践する能力を養う。

目標

- 1 対象の状態に応じた看護を実践するための知識・技術を習得する。
- 2 看護管理の基礎が理解できる。
- 3 広がる看護の活動領域・看護活動を理解する。
- 4 既習の知識・技術を統合し、よりよい看護活動・よりよい看護の場を探究する。

教科目の構成

看護の統合と実践	—	臨床看護の実践Ⅰ	1単位（15時間）
		臨床看護の実践Ⅱ	1単位（30時間）
		看護管理	1単位（30時間）
		看護の活動領域	1単位（30時間）

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	臨床看護の実践 I
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年	3 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 12 年		

設定理由：既習の知識・技術を統合し、患者に合った看護を実践する能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 患者の状態をアセスメントし、看護計画を立案できる。</p> <p>2 立案した看護計画に基づき援助できる。</p> <p>3 看護計画・看護実践能力を評価し、自己の課題を明確にする。</p>	15	<p>1 事例展開</p> <p>1) 事例の患者を情報解釈し、どのような状態にあるかを理解する。</p> <p>2) 看護計画を立案し、実践できるように具体的に援助計画を考える。</p> <p>3) 援助計画に沿って、援助を実践する。</p> <p>2 事例展開の振り返り</p> <p>事例</p> <p>肝硬変—浮腫がある患者</p> <p>心不全—呼吸困難がある患者</p> <p>脳梗塞—片麻痺がある患者</p> <p>糖尿病—血糖コントロールが必要な患者</p>	講 義 演 習	試 験

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	臨床看護の実践Ⅱ
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	3年（後期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院12年		

設定理由：卒業時に求められる知識・技術を習得する。さらに、リスクマネジメント能力、倫理的判断能力を活用し、患者の状態に合った看護を実践する能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 到達度Ⅱの技術が実践できる。	10	<p>1 到達度Ⅱの看護技術</p> <p>1) 到達度Ⅱの技術到達に向けて事例をアセスメントする。</p> <p>2) 事例の状態にあった看護技術を実施する。 (看護技術の目的、必要物品、手順、観察点、留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚥下障害のある患者の経管栄養法 (経鼻胃チューブの挿入・確認) ・尿閉の患者の導尿（無菌操作含む） ・便秘の患者の浣腸 ・意識障害のある患者の口腔内・鼻腔内吸引 	講 義 演 習	レポート
2 到達度Ⅲ・Ⅳの技術の根拠・方法を理解できる。	10	<p>2 到達度Ⅲ・Ⅳの看護技術</p> <p>1) 看護技術の目的、必要物品、手順、観察点、留意事項を学習する。</p> <p>2) 看護技術を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器装着中の患者の看護（体位ドレナージ、気管内吸引） ・皮下注射（誤薬防止、針刺し事故防止を含む） ・筋肉内注射（誤薬防止、針刺し事故防止を含む） ・静脈血採血 ・点滴静脈内注射 	講 義 演 習	レポート
3 事例や看護場面からリスクマネジメント・倫理的対処について検討し、実践できる。	10	<p>3 複数患者受け持ち事例展開</p> <p>1) 事例から複数患者の看護の優先度を考慮し、一日の行動計画を立案する。</p> <p>2) 複数技術や複数患者の援助を優先度や時間配分を考え実践する。</p> <p>事例</p> <p>肝硬変—浮腫がある患者</p> <p>心不全—呼吸困難がある患者</p>	講 義 演 習	レポート

		脳梗塞—片麻痺がある患者 糖尿病—血糖コントロールが必要な患者		
--	--	------------------------------------	--	--

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	看護管理
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	3 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	法人講師 1) 専任教員 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 41 年 2) 看護師として附属病院 21 年		

設定理由：看護管理の要素と技術を学び、マネジメントに活かす能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護管理の要素が理解できる。	12	1 看護管理の目的 2 病院看護管理 1) 病院組織・看護管理 2) 病棟業務・看護長業務 3) 患者管理 4) 看護体制 3 医療チーム 1) 他職種との連携 2) リーダーシップ、メンバーシップ 4 看護管理の技術	講 義	試 験
2 望ましい病院を構築することで、ケアマネジメントと組織マネジメントの知識を理解できる。	6	5 既習の知識を活用し、望ましい病院を構築し発表する。 1) 病院の設定・地域との関係 2) 病棟 3) 病室 4) 看護体制 5) 災害看護 6) 医療安全対策	講 義	レポート
3 リスクマネジメントの知識と技術を習得する。	6	6 リスクマネジメント 1) 事故防止の考え方 2) 診療の補助に伴う援助技術と事故防止 3) 医療用機器使用の事故防止 4) 療養上の世話における事故防止 5) 感染予防対策 7 倫理的問題への対処	講 義	レポート
	6	8 事例展開 1) 転倒・転落防止のマネジメント 2) 誤薬防止のマネジメント 3) 患者誤認防止のマネジメント		

		4) スタンダードプリコーション		
--	--	------------------	--	--

テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕 看護管理 医学書院
系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	看護の活動領域
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	3 年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師 1) 2) 専任教員 3)		
実務経験	1) 看護師として他病院 27 年 2) 看護師として他病院 33 年 3) 看護師として附属病院 11 年		

設定理由：看護の領域・役割・場を理解し、国際協力や災害場面の看護を考える能力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 災害看護と国際看護の基礎を理解する。	20	1 災害とは 1) 定義 2) 種類 3) 疾病構造 2 災害看護とは 1) 災害看護の特殊性 2) 災害支援ナースとは 3) トリアージ 4) 事例を通してトリアージの分類を行う 3 災害サイクルと看護活動 4 災害時の取り組み 5 被災者のこころのケア	講 義	試 験
2 国際看護の基礎を理解する。	10	6 国際看護とは 7 世界の健康問題 8 国際社会と看護活動 9 国際協力活動 10 国際医療・看護活動	講 義	レポート

テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院

統合分野

分野科目名	統合分野	科目名	統合実習
単位・時間	2単位 90時間	対象学年	3年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 11年		

目 的

看護の対象を総合的に理解し、医療チームの一員として主体的に看護を実践する能力を養う。

目 標

- 1 患者を統合的に理解し、安全・安楽・自立を考慮した援助が実践できる。
 - 1) 24時間の生活を支える看護が実践できる。
 - 2) 複数の患者に援助を実践できる。
- 2 保健医療福祉チームにおける看護のマネジメントが理解できる。
 - 1) 看護チームの役割がわかる。
 - 2) 看護をマネジメントするための方法がわかる。
- 3 看護実践者としての自己を考えることができる。
- 4 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 実習施設の看護管理者からオリエンテーションを受ける。
- 3 患者を2名もち、看護を実践する。
- 4 実習部署の看護管理者と行動を共にして1日実習する。
- 5 看護チームリーダーと行動を共にして1日実習する。
- 6 夜間実習を2日行う。
- 7 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。
- 8 学生および教員でグループワークを行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。

- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 統合実習の評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。